

〔科目名〕 仏教学入門

An Introduction to Buddhist Studies

〔担当者名〕 林 雅清

〔開講学期〕 1年次 前期

〔単位数〕 2単位

〔授業形態〕 講義

〔授業の概要〕

仏教とは何か。仏教がなぜ生まれ、広まり、そしてこの日本で定着したのか。本講義では、仏教の開祖ゴータマ・ブッダの生涯と、日本の浄土宗の開祖法然上人の生涯を中心に、インドで生まれた仏教が日本に伝わり、そして広まっていった歴史を振り返りながら、仏教のものの考え方について学んでいく。

〔専門的学習成果〕

ゴータマ・ブッダと法然上人の生涯を通して仏教の基礎知識と思想を学び取り、本学の「建学の精神」を理解すること。

〔汎用的学習成果〕

本学の「建学の精神」を理解することにより、倫理観や自己管理能力を身につけること。

〔事前履修が望ましい科目〕

特になし

〔授業計画〕

- 1 インTRODクシヨン～宗教とは～
- 2 ゴータマ・ブッダの生涯①
- 3 ゴータマ・ブッダの生涯②
- 4 ゴータマ・ブッダの生涯③
- 5 ゴータマ・ブッダの説法と救い
- 6 ゴータマ・ブッダの教えとその影響
- 7 仏教東漸
- 8 日本仏教の成立と発展
- 9 法然上人の生涯①
- 10 法然上人の生涯②
- 11 法然上人の生涯③
- 12 法然上人の教えとその影響
- 13 仏教精神と本学の「建学の精神」
- 14 仏教と「幸せ」
- 15 総括～仏教とは～

〔授業方法〕

プリントと板書による講義を中心とする。また、仏教精神に対する理解を深めるため、関連する映像資料なども用いる。

〔授業外学習〕

毎回の授業の内容をノートにまとめるなど、復習をしっかりとすること。また、本講義で得た知識やものの考え方をきっかけにして、人間社会における様々な事象について「自分はこう思う」「自分ならこうする」ということを考える習慣を身につけるようにすること。

〔成績評価方法〕

- 学期末レポート (60%)
- 小テスト・課題等 (30%)
- 受講態度 (10%)

〔教科書〕

特になし

〔参考書〕

- 『響きあうところ 生かしあういのち—建学の精神と学訓—』
- 『仏教聖典』
- (いずれも初年度4月中に配付予定)
- その他、授業中に適宜紹介する。

〔準備物〕

適宜授業内で指示する。

〔教員からのメッセージ〕

本学の「建学の精神」の根本を学ぶ科目です。しっかり講義を聴き、自分なりの考えを持つよう心掛けましょう。

〔教員との連絡方法〕

M503 研究室

〔参考 Web ページ〕

特になし

〔備考〕

特になし

〔科目名〕 仏教学入門

An Introduction to Buddhist Studies

〔担当者名〕 仲宗根 充修

〔開講学期〕 1年次 前期

〔単位数〕 2単位

〔授業形態〕 講義

〔授業の概要〕

仏教とは何か。仏教がなぜ生まれ、広まり、そしてこの日本で定着したのか。本講義では、仏教の開祖ゴータマ・ブッダの生涯と、日本の浄土宗の開祖法然上人の生涯を中心に、インドで生まれた仏教が日本に伝わり、そして広まっていった歴史を振り返りながら、仏教のものの考え方について学んでいく。

〔専門的学習成果〕

主にゴータマ・ブッダおよび法然上人の生涯を通して、仏教の基礎知識と思想を学び取り、京都文教短大の建学の精神を理解すること。

〔汎用的学習成果〕

京都文教短大の建学の精神を理解することによって、倫理観や自己管理能力を身につけること。

〔事前履修が望ましい科目〕

特になし

〔授業計画〕

- 1 これから学ぶ内容についての概説、及び参考文献などの紹介、予習・復習を含め授業にあたって準備すべきことなど
- 2 ゴータマ・ブッダの生涯①：誕生から青年時代まで
- 3 ゴータマ・ブッダの生涯②：出家と修行
- 4 ゴータマ・ブッダの生涯③：成道（悟り）
- 5 ゴータマ・ブッダの生涯④：初転法輪（最初の説法）と入滅（最後の旅）
- 6 日本の仏教①：仏教公伝と飛鳥時代の仏教
- 7 日本の仏教②：奈良時代の仏教
- 8 日本の仏教③：平安時代の仏教
- 9 日本の仏教④：鎌倉時代の仏教
- 10 法然上人の生涯①：誕生から出家・修行時代まで
- 11 法然上人の生涯②：回心と布教活動
- 12 法然上人の生涯③：法難から入滅まで
- 13 京都文教短大の建学の精神
- 14 わたしたちの暮らしと仏教
- 15 前期に学んだ内容の復習：ブッダの教えと法然上人の教え、本学の建学の精神など

〔授業方法〕

スライド等を使用しながらの講義形式の授業を行う。適宜映像資料等も用いる。

〔授業外学習〕

- 予習：次回の授業で用いる資料を熟読しておくこと。
- 復習：授業時に課される宿題をやり遂げ提出すること。

〔成績評価方法〕

- ・授業への積極的な参加態度 (10%)
- ・小テスト (50%)
- ・学期末レポート (40%)

〔教科書〕

特になし

〔参考書〕

- ・『響きあうところ 生かしあういのち—建学の精神と学訓—』
- ・『仏教聖典』
- 上記参考書については、初年度4月中に配付予定。その他、授業中に適宜紹介する。

〔準備物〕

講義資料

〔教員からのメッセージ〕

規則正しい生活を身につけることによって、遅刻・欠席のないようにすること。また、授業には集中力をもって臨み、質問や発言をすることによって積極的に参加すること。決して私語や居眠り等のないようにすること。

〔教員との連絡方法〕

M517 研究室

〔参考 Web ページ〕

特になし

〔備考〕

特になし

〔科目名〕 自校史を学ぶ

On History of Our College

〔担当者名〕 安本義正・岡本美晴・坂本千科絵・坂本裕子・
千古利恵子・富田英子・仲宗根充修・林雅清・伏見強・
森美奈子・山岡憲二

〔開講学期〕 1年次 後期

〔単位数〕 2単位

〔授業形態〕 講義

〔授業の概要〕

本学の「建学の精神」および「教育方針（目標）」について、十分に理解し、「本学園の歴史」と「本学の歩み」について、あらゆる角度から理解を深め、本学で学ぶことの意義について考えてもらいます。さらに、自分自身の内面に気づくことによって、「他者に優しい心豊かな生き方」について考えます。

〔専門的学習成果〕

「建学の精神」、「教育方針（目標）」、「本学の歴史と歩み」を理解し、自分自身の内面を見つめ、「いのち」、「共に生きること」の意義を探求し、自ら「心豊かな人生」について考える。

〔汎用的学習成果〕

「建学の精神」のもと、社会に貢献できる次のような「人間力」を獲得する。

- ① 問題発見・解決力／論理的思考力
- ② 自己管理能力／倫理観
- ③ コミュニケーション力／チームワーク

〔事前履修が望ましい科目〕

特になし

〔授業計画〕

- 1 授業ガイダンス
- 2 本学（学園）の建学の精神
- 3 本学の教育方針（目標）とキャッチフレーズ
- 4 自校史を学ぶ意義
- 5 自校史を学ぶ心構え
- 6 本学の歩み（1）
- 7 本学の歩み（2）
- 8 本学の歩み（3）
- 9 建学の精神を考える（1）
- 10 建学の精神を考える（2）
- 11 建学の精神を考える（3）
- 12 建学の精神を考える（4）
- 13 建学の精神を考える（5）
- 14 建学の精神を考える（6）
- 15 建学の精神を考える（7）

〔授業方法〕

講義を中心とする（フィールドワーク含む）。

〔授業外学習〕

各講義後は、その授業内容・ねらいなどについて自分で振り返りながら考えること。次回の授業について事前に指示されたことについてよく準備しておくこと。

〔成績評価方法〕

最終レポート試験（40%）、授業期間中のレポート課題（30%）、受講態度（30%）により、総合的に評価し、成績を算出する。

〔教科書〕

『自校史を学ぶ』（ぎょうせい）

〔参考書〕

適宜指示する。

〔準備物〕

特になし

〔教員からのメッセージ〕

学内外のあらゆるものに興味・関心を持ち、授業に臨むこと。

〔教員との連絡方法〕

授業時に指示する。

〔参考 Web ページ〕

特になし

〔備考〕

レポート課題・作成方法・提出時期等は、開講後授業中に指示する。

〔科目名〕 生活の中の仏教

Buddhist Culture in Life

〔担当者名〕 林 雅清

〔開講学期〕 前期・後期（半期）

〔単位数〕 2単位

〔授業形態〕 講義

〔授業の概要〕

私たちの生活の中には、仏教に由来する言葉や行事、あるいはマナーなどが溢れている。また、日本の伝統芸能や音楽などにも、仏教と関係の深いものがたくさんある。この授業では、そのような日本人の生活の中に息づいている「仏教」について紹介していく。

〔専門的学習成果〕

日常使っている言葉や生活の中の作法、あるいは日本の伝統行事やしきたりの由来などを知ることにより、自身の今後の生活に役立つ知識や、仏教的なものの考え方が身につく。

〔汎用的学習成果〕

上記の専門的学習成果を得ることにより、社会のルールに従って考え行動できる力や情操が養われ、倫理観や自己管理能力が身につく。

〔事前履修が望ましい科目〕

「仏教学入門」

〔授業計画〕

- 1 日本の中の仏教
- 2 日常会話の中の仏教語①
- 3 日常会話の中の仏教語②
- 4 日本の仏教行事①
- 5 日本の仏教行事②
- 6 仏像の種類と仏教の世界観
- 7 お寺と神社の違い
- 8 葬儀の心得とマナー
- 9 法要の意味と作法
- 10 お墓と仏壇
- 11 日本の礼儀作法と仏教
- 12 写経体験
- 13 仏教と音楽①～雅楽～
- 14 仏教と音楽②～声明～
- 15 仏教とサブカルチャー

〔授業方法〕

板書とプリントを中心に講義を進めていく。なお、後半はテーマによって映像資料を用いたり、体験学習等も取り入れる予定である。

〔授業外学習〕

レポート作成の参考になるよう、毎回の授業の内容をノートにまとめておくこと。また、本講義で得た知識や体験などを通して、仏教文化や仏教精神、日常生活における「仏教的なもの」に目を向けるよう習慣づけること。

〔成績評価方法〕

レポート（2000字以上）60%
授業中の課題 20%
受講態度 20%

〔教科書〕

特になし

〔参考書〕

授業中に適宜紹介する。

〔準備物〕

適宜授業内で指示する。

〔教員からのメッセージ〕

日頃何気なく使っている言葉の由来やお葬式のマナーなど、学校では教わらないけれど「常識」と呼ばれるようなさまざまな知識が得られます。仏教精神が「建学の精神」となっている本学ならではの講義、皆さん是非受講してみてください。

〔教員との連絡方法〕

M503 研究室

〔参考 Web ページ〕

授業中に適宜紹介する。

〔備考〕

特になし

〔科目名〕人間と宗教

Human Nature and Religion

〔担当者名〕仲宗根 充修

〔開講学期〕前期・後期（半期）

〔単位数〕2単位

〔授業形態〕講義

〔授業の概要〕

宮澤賢治、中村久子、金子みすゞ、マハトマ・ガンディー、マザー・テレサ、ダライ・ラマ 14 世など、艱難辛苦を乗り越えて、輝かしい人生を送った人たちの生と死を見つめることを通して、わたしたちはどのように生きるべきかという問いについて考えるとともに、私たちが生きて行くうえで宗教が担う役割について考える。

〔専門的学習成果〕

現代に生きるわたしたちの社会にも多大な影響を与えた人びとの事跡を振り返りながら、かれらが精神的支柱としていた宗教について理解を深める。

〔汎用的学習成果〕

わたしたちはどのように生きるべきかという問いについて考える。

〔事前履修が望ましい科目〕

仏教学入門

〔授業計画〕

- 1 これから学ぶ内容についての概説、及び参考文献などの紹介、予習・復習を含め授業にあたって準備すべきことなど
- 2 宮澤賢治と仏教 (1)
- 3 宮澤賢治と仏教 (2)
- 4 宮澤賢治と仏教 (3)
- 5 中村久子と仏教 (1)
- 6 中村久子と仏教 (2)
- 7 金子みすゞと仏教 (1)
- 8 金子みすゞと仏教 (2)
- 9 マハトマ・ガンディーとヒンドゥー教 (1)
- 10 マハトマ・ガンディーとヒンドゥー教 (2)
- 11 マザー・テレサとキリスト教 (1)
- 12 マザー・テレサとキリスト教 (2)
- 13 ダライ・ラマ 14 世と仏教 (1)
- 14 ダライ・ラマ 14 世と仏教 (2)
- 15 これまでに学んだ内容の復習、及び人間と宗教について

〔授業方法〕

スライド等を使用しながらの講義形式の授業を行う。適宜映像資料等も用いる。

〔授業外学習〕

予習：次回の授業で用いる資料を熟読しておくこと。
復習：授業時に課される宿題をやり遂げて提出すること。

〔成績評価方法〕

- ・授業への積極的参加態度 (10%)
- ・中間レポート (50%)
- ・学期末レポート (40%)

〔教科書〕

特になし

〔参考書〕

- ・宮澤賢治『銀河鉄道の夜』新潮文庫 1989 年。
- ・中村久子『こころの手足』春秋社 1987 年。
- ・金子みすゞ『金子みすゞ童謡集』ハルキ文庫 1998 年。
- ・マハトマ・ガンディー『今こそ読みたいガンディーの言葉』朝日新聞出版 2011 年。
- ・マザー・テレサ『愛のことば 祈りのことば』メトロポリタン・プレス 2010 年。
- ・ダライ・ラマ 14 世『ダライ・ラマ 実践の書』春秋社 2010 年。

〔準備物〕

講義資料

〔教員からのメッセージ〕

〔教員との連絡方法〕

M517 研究室

〔参考 Web ページ〕

〔備考〕

受講定員 80 名以下。

〔科目名〕くらしと憲法

Constitutional Law in Contemporary Society

〔担当者名〕田中 是規

〔開講学期〕前期・後期（半期）

〔単位数〕2単位

〔授業形態〕講義

〔授業の概要〕

最高法規である日本国憲法がどのように市民生活に関わっているか、人権と統治機構から取り上げる。人権については判例を題材に実際にどのようなケースが問題となっているのかを紹介する。統治機構については人権との関係を指摘しつつ概説する。

〔専門的学習成果〕

日本国憲法の学習を通じて、人権意識の涵養を促すとともに、法的思考力の習得を目指す。

〔汎用的学習成果〕

一般教養として憲法の基本的理解を深めるとともに、社会の担い手としての成長を促す。

〔事前履修が望ましい科目〕

特になし

〔授業計画〕

- 1 日本国憲法の仕組み（全体像の概説、成立過程のお話）
- 2 人権編① 個人主義と幸福追求権
- 3 人権編② 法の下での平等
- 4 人権編③ 思想良心の自由と表現の自由
- 5 人権編④ 信教の自由（政教分離）
- 6 人権編⑤ 学問の自由と教育権
- 7 人権編⑥ 職業の自由と営業の自由
- 8 人権編⑦ 人身の自由（法定手続きの保障）
- 9 人権編⑧ 生存権、請願権、参政権（国家に対する権利）
- 10 統治編① 国民主権と象徴天皇制（明治憲法との比較）
- 11 統治編② 平和主義（自衛隊、国際連合のお話）
- 12 統治編③ 立法 1（国会の仕組み、国会議員の地位）
- 13 統治編④ 立法 2（立法過程と官僚制度）
- 14 統治編⑤ 行政（内閣）、地方自治
- 15 統治編⑥ 司法（司法権の独立、裁判所の仕組み）

〔授業方法〕

教科書とプリントを使った講義。必要に応じて判例等の資料を配布する。

〔授業外学習〕

復習をしっかりとしてください。

〔成績評価方法〕

平常点 30%、中間レポート（1回）20%、期末試験 50%

〔教科書〕

「目で見える憲法 第4版」（初宿他編著 有斐閣）

〔参考書〕

特になし

〔準備物〕

教科書

〔教員からのメッセージ〕

できるだけ分かりやすい授業を目指します。

〔教員との連絡方法〕

教務課を通して連絡

〔参考 Web ページ〕

特になし

〔備考〕

特になし

〔科目名〕くらしと政治・経済

Politics and Economics

〔担当者名〕林 法隆

〔開講学期〕前期・後期（半期）

〔単位数〕2単位

〔授業形態〕講義

〔授業の概要〕

現代社会は極めて複雑となり、また変化が激しい社会である。政治と経済は深く絡み合い、地球環境、民族、人口問題など新たな課題も含まれるようになった。世界各国のさまざまな思惑、意図によって揺れ動く世界政治と世界経済。今の閉塞状況から脱し、将来の生活不安を解消するにはマクロ経済、財政再建、自由競争政策などすべてを踏まえて、どのような進むべき道があるのかを考えてみたい。

〔専門的学習成果〕

社会科学の見地から現代社会を読み解く能力を身に付けること。

〔汎用的学習成果〕

日々の生活の判断に役立つようにすること、また日本人としてさらに地球市民としての自覚を高めること。

〔事前履修が望ましい科目〕

〔授業計画〕

- 1 オリエンテーション
- 2 日本の政治 (1) 一国会・内閣・裁判所
- 3 日本の政治 (2) 一政党政治・選挙制度
- 4 日本の政治 (3) 一地方自治
- 5 日本の政治 (4) 一外交と安全保障
- 6 現代経済の仕組み (1) 一現代の資本主義経済
- 7 現代経済の仕組み (2) 一財政政策
- 8 現代経済の仕組み (3) 一金融政策
- 9 現代経済の仕組み (4) 一国際通貨体制と貿易協定
- 10 日本経済の発展と諸問題 (1) 一戦後日本経済の歩み
- 11 日本経済の発展と諸問題 (2) 一日本経済の構造変化
- 12 日本経済の発展と諸問題 (3) 一労働雇用問題
- 13 国際関係 (1) 一国際連盟と国際連合
- 14 国際関係 (2) 一地域的経済統合
- 15 世界の中の日本

〔授業方法〕

講義と演習

〔授業外学習〕

日々の新聞やテレビのニュースに興味をもつこと。

〔成績評価方法〕

定期試験（60%）、小テスト（40%）

〔教科書〕

〔参考書〕

〔準備物〕

〔教員からのメッセージ〕

政治・経済の現状を正しく理解し、講義から実生活へと架橋しよう。

〔教員との連絡方法〕

〔参考 Web ページ〕

〔備考〕

〔科目名〕人権といのち

Human Rights and Life

〔担当者名〕竹口 等

〔開講学期〕前期・後期（半期）

〔単位数〕2単位

〔授業形態〕講義

〔授業の概要〕

人権が大切だということは、多くの人々が知っている。しかし、人権は社会問題として、私たちの日常生活の中に具体的な現実として存在している。この講義では、身近にある具体的な人権を取り上げ、その現実をしっかりと認識するとともに、その解決に寄与できる人間となるための基礎的な視点を考察する。

〔専門的学習成果〕

広く社会に存在する人権問題についての認識を深める。

〔汎用的学習成果〕

人権問題について関心を持ち、市民社会の構成員・主体者として、考察し行動できる素養を身につける。

〔事前履修が望ましい科目〕

〔授業計画〕

- 1 シラバス・授業のオリエンテーション 「人権って何？」
- 2 人権の社会的性質と自己の人権意識
- 3 子どもと人権 1 *子どもの権利条約
- 4 子どもと人権 2 *子どもに対する人権侵害
- 5 子どもと人権 3 *子どもの人権確立にむけて
- 6 女性と人権 1 *女性の社会的地位
- 7 女性と人権 2 *男女共同参画社会
- 8 報道・ネットと人権 1 *ソーシャルメディアリテラシー
- 9 報道・ネットと人権 2 *報道被害
- 10 障害者と人権 1 *バリアフリー
- 11 障害者と人権 2 *ノーマライゼーション
- 12 部落差別と人権 1 *差別認識と態度のギャップ
- 13 部落差別と人権 2 *見える差別・見えない差別
- 14 部落差別と人権 3 * With の力
- 15 これまでの学びを振り返る *最終レポート

〔授業方法〕

講義を基本とし、映像やワークショップ的な学習を行う。

〔授業外学習〕

授業のテーマにある問題については、日頃から新聞・TVなどで関心を高めること。

〔成績評価方法〕

テーマに応じたレポート 60% 授業中の課題 40%

〔教科書〕

〔参考書〕

〔準備物〕

ノート・配布するレジュメや資料の持参

〔教員からのメッセージ〕

社会的視座という「やさしさ」

〔教員との連絡方法〕

takeguti@po.kbu.ac.jp

〔参考 Web ページ〕

〔備考〕

〔科目名〕メディアと情報

Media and Information

〔担当者名〕真下 知子

〔開講学期〕前期・後期（半期）

〔単位数〕2単位

〔授業形態〕講義

〔教員との連絡方法〕

〔参考 Web ページ〕

総務省「国民のための情報セキュリティサイト」

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/security/index.htm社団法人 著作権情報センター <http://www.cric.or.jp/>文化庁 <http://www.bunka.go.jp/>

〔備考〕

〔授業の概要〕

高度情報通信ネットワーク社会における主体的な情報活用能力の育成を目的とし、コンピュータを含めた様々な情報メディアの特性とそれらの影響による社会およびコミュニケーションの変化について、身近なトピックを通して学習する。また、グループでの演習を通して、情報に対する正しい判断能力や、受け手の立場に立った情報発信のあり方について考える。

〔専門的学習成果〕

高度情報通信ネットワーク社会の特徴および様々な情報メディアが与える影響を理解する。また、情報活用に関わるモラルとルールおよび情報に対する正しい判断能力を養うことができる。

〔汎用的学習成果〕

物事を様々な側面から考え、正しい判断を下すための論理的な思考力を身に付ける。

グループで課題に取り組み、他者とのコミュニケーションを通して、自分のものの見方や考え方を再検討したり、課題解決に向けて協力する姿勢を養う。

〔事前履修が望ましい科目〕

〔授業計画〕

- 1 情報とコミュニケーション
- 2 高度情報通信ネットワーク社会の特徴
- 3 情報とメディア①
－メディアの歴史、役割と機能－
- 4 情報とメディア②
－人への影響、社会の変化－
- 5 相手の立場に立った情報発信・伝達とは
- 6 情報とデジタル技術
- 7 ネットワークの意味と利用分野
- 8 情報社会のセキュリティ①
－情報セキュリティ、コンピュータの被害－
- 9 情報社会のセキュリティ②
－ネット利用による問題点－
- 10 情報モラルとは
- 11 情報の信憑性・信頼性
- 12 個人情報とプライバシー①
- 13 個人情報とプライバシー②
－事例を通して考える－
- 14 知的所有権（著作権）
- 15 情報活用のための正しい判断能力とは
(クリティカル・シンキング)

〔授業方法〕

講義科目であるが、グループでのディスカッションや発表など、学生参加型の授業形態をとっている。

〔授業外学習〕

1. 事前に指示、または配布した文献や資料については必ず目を通し、内容に関する課題に取り組むこと。
2. 授業では、身近なトピックを通して、特に情報社会に参画する態度の育成をめざす。日常の生活においてもコンピュータやネットワークを含めて様々なメディアが私たちに与える影響について関心を持ち、考える習慣をつけること。

〔成績評価方法〕

学習成果は筆記試験（50%）、小テスト・小レポート（30%）、演習への参加と提出物（20%）、によって総合的に評価する。

〔教科書〕

プリント配布

〔参考書〕

授業中に随時紹介する。

〔準備物〕

〔教員からのメッセージ〕

学生の皆さんの主体的な授業参加を期待します。

〔科目名〕くらしと環境

Living and Environment

〔担当者名〕細長 喜久代

〔開講学期〕前期

〔単位数〕2単位

〔授業形態〕講義

〔授業の概要〕

街には色々なファッションアイテムやアパレル製品があふれている。そのような私たちの環境の中で、流行を社会現象として理論的に捉え、衣服の機能面も考え合わせ、衣生活、特に靴生活の問題点にアプローチしていく。

〔専門的学習成果〕

下記の3項目の消費生活時代に必要な知識を身につける。

1. 流行の特質、展開、採用について理解する。
2. 人の姿勢、歩き方、足型、温熱感覚について理解する。
3. ファッションデザイン上の問題点と解決法を理論的に理解する。

〔汎用的学習成果〕

消費者として、適切な既製服・靴を選択・購入する能力と、健康で、ひとにやさしい衣生活環境を提案し実践できる能力を獲得する。

〔事前履修が望ましい科目〕

〔授業計画〕

- 1 全体ガイダンスと衣生活・靴生活の実態
- 2 流行の分類：定義 方法
- 3 流行の特質：集団 影響力
- 4 流行の展開過程：採用者の役割
- 5 流行成立の条件：消費者・企業サイドの観点
- 6 既製服の購入：デザインと価格
- 7 人のプロポーションと姿勢：自分の姿勢チェック
- 8 歩くことと靴：靴選び
- 9 グループディスカッション (1)
- 10 温熱環境の指標：体温 感覚
- 11 衣服気候：快適 発汗
- 12 衣服気候を左右する要因 (1)：保温性 重ね着
- 13 衣服気候を左右する要因 (2)：デザイン ゆとり
- 14 衣服と靴の拘束力：ストレス トラブル
- 15 グループディスカッション (2)

〔授業方法〕

資料を配布または提示し講義形式で行う。適時、グループでディスカッション、プレゼンを行う。

〔授業外学習〕

服を着ることは空気を着ることである。靴を履くことは、足を保護するとともに足を変形させる。そのようなことを日常意識し、衣生活に役立ててほしい。

〔成績評価方法〕

学習成果は筆記試験 (60%)

グループディスカッションへの参加と提出物 (40%)

〔教科書〕

〔参考書〕

『人間行動学講座 第1巻』中島義明他 (朝倉書店)

『基礎被服衛生学』田村照子 (文化出版局)

〔準備物〕

〔教員からのメッセージ〕

知識を覚えるのではなく、何がわからないか、自分の問題点を見だし、問題点を解決する方法を考えることが大切です。

〔教員との連絡方法〕

教務を通して連絡

〔参考 Web ページ〕

〔備考〕

〔科目名〕くらしと環境

Living and Environment

〔担当者名〕山田 智子

〔開講学期〕後期

〔単位数〕2単位

〔授業形態〕講義

〔授業の概要〕

京都を中心に、近世・近代における日本の各地域の住居・都市・町なみ・集落の発展過程を取り上げ、それらがもつ歴史性・地域性の意味を理解し、問題意識を提起する。近代主義による生活と住環境の変化を認識し、「温故知新」をキーワードに、現代の住環境を考え直す。

〔専門的学習成果〕

これからの住まいを過去のくらしとの関わりの中かで考え、住環境に対してしっかりした視点を持つ能力を身につける。

〔汎用的学習成果〕

住環境について、歴史性・地域性を考慮して現状を分析し、問題点を発見して解決する能力を身につける。

住環境に対してしっかりした視点を持ち、自分の意見や考え方を表現できる論理的思考力を養う。

〔事前履修が望ましい科目〕

特になし

〔授業計画〕

- 1 身近なくらしと住環境 (地藏盆と地域コミュニティ)
- 2 京都の町なみ (重要伝統的建造物群保存地区を中心に)
- 3 京都の町と町家のくらし
- 4 京都の町と町家のくらし (平安期から江戸期まで)
- 5 京都の町と町家のくらし (江戸期の町なみの規制)
- 6 町なみと町家の地域性
- 7 伏見の町なみと景観 (伏見南浜界わい景観整備地区を中心に)
- 8 伝統的民家の地方形式
- 9 近代主義の始まりー第1回ロンドン万博の意義
- 10 京都の近代化
- 11 京都の小学校校舎の成立とまちづくり
- 12 近代における町なみと町家のくらしの変容 (京都・大阪)
- 13 災害と住環境
- 14 町家の知恵を現代の住まいに活かす
- 15 伝統的民家にみるエコロジーな住まいづくり

〔授業方法〕

毎回の講義はパワーポイントを使用し、スライドとプリントの併用で進める。スライドを見ながら、プリントの文章の空欄に重要なキーワードを記入していく。期末試験は、このキーワードを中心に出题する。受講人数が見学に適したものであれば、理解を深めるために伏見の町家と町なみの見学会を実施する。

〔授業外学習〕

復習として、伝統的な環境の中で営まれていたくらしの知恵について、現代の生活にどのように生かすのか、自分で考える習慣をつけること。

〔成績評価方法〕

最終評価は、下記の項目を総合的に評価して算出する。

期末の筆記試験 (70%)

期中の数回のコメントカードとミニレポート (30%)

〔教科書〕

使用しない

〔参考書〕

『京・まちづくり史』高橋康夫・中川理編 (昭和堂)

『図説・近代日本住宅史 幕末から現代まで』内田青蔵・大川三雄・藤谷陽悦 (鹿島出版会)

〔準備物〕

見学会開催時には1回分の交通費 (実費) と入場料が必要となる。

〔教員からのメッセージ〕

近年、京町家をお洒落なカフェやレストランに再生した店舗が話題になっています。古さに新たな価値が見出された事例です。京都の町家や町なみもつ歴史性や地域性が現代にどう生かされているのかという視点から捉えていきましょう。

〔教員との連絡方法〕

特になし

〔参考 Web ページ〕

授業中に適宜指示する。

〔備考〕

特になし

〔科目名〕 ころと臨床

Clinical Psychology

〔担当者名〕 岡本 浄実

〔開講学期〕 前期・後期（半期）

〔単位数〕 2単位

〔授業形態〕 講義

〔授業の概要〕

保育・運動指導・教育の専門職に関わる「心と体の健康課題」をライフステージにおける「ストレス」という視点に着目し学ぶ。また、ストレスに関連する生活行動に対して福祉レクリエーションの視点をういた援助技術を体験する。

〔専門的学習成果〕

- (1) ころとからだの健康課題と各専門職の関わりを理解する。
- (2) ライフステージにおけるストレスとの関わりを理解する。
- (3) ストレスと関わりのある生活行動に対する行動変容の方法を福祉レクリエーションの視点から体験し理解する。

〔汎用的学習成果〕

ライフステージにおける「ストレス」に対し問題解決に向けた情報を収集できる問題発見力を獲得する。また、「ころとからだの健康課題」について各専門領域から問題解決に向けた手順を考え、自分の意見や考えを表現できる力を獲得する。

〔事前履修が望ましい科目〕

特になし

〔授業計画〕

- 1 ころとからだ1 授業概要の説明・身の回りのストレスを考える
- 2 ころとからだ2 様々な健康課題～メディアとの関わりからエンディングノートまで～
- 3 ころとからだ3 健康とストレスマネジメント
- 4 ころとからだ4 「ころのつながり」をつくる～レクリエーション活動 地域作りから仲間づくりまで～
- 5 ころと育ち1 妊娠・出産の心理社会的支援～マリッジブルー・子育て支援～
- 6 ころと育ち2 子どものしつけと遊び～トイレトレーニング等～
- 7 ころと育ち3 学童・思春期における心理教育的支援～生活習慣・いじめ～
- 8 ころと育ち4 集団遊びに「入ろうとする」心を育てる～保育園での実践例から～
- 9 症状を支える1 生活習慣病と臨床心理学的支援～糖尿病を中心に～
- 10 症状を支える2 行動変容を用いた生活支援～運動をしたくない人への関わり～
- 11 症状を支える3 高齢者と心理社会的支援～認知症と介護～
- 12 ころと体を支える1 情報に基づいた支援～福祉レクリエーションの視点をういた生活支援～
- 13 ころと体を支える2 災害時の心理社会的支援
- 14 ころと体を支える3 身体的アプローチによるストレスマネジメント
- 15 ころと体を支える4 各授業テーマの啓蒙啓発について

〔授業方法〕

基本的には、講義形式で1回でテーマを解決させる形式で行う。また、事例検討などの演習形式を含む。また、授業終了時に出席レポートを提出すること。

〔授業外学習〕

今回のテーマについて考え自分自身の意見を200字程度で述べるようにし授業に臨むこと。

〔成績評価方法〕

(1) 出席レポート 50% (2) 試験課題レポート 50%によって総合的に評価する。また、受講中の問題行動（私語、居眠り、非協力的態度等）については、減点をする場合がある。

〔教科書〕

テキストは使用しない。毎回、資料を配付する。資料は、授業の評価ができるまできちんと保管すること。

〔参考書〕

- (1) ストレスマネジメントと臨床心理学、山中寛、金剛出版
- (2) 健康心理学がとってよくわかる本

(3) 野口京子、東京書店、健康倫理学入門、鳥居哲志他、有斐閣

(4) テーマに沿った参考書は授業時に紹介します

〔準備物〕

特にありません。

〔教員からのメッセージ〕

これからもたくさんの「ストレス」を抱えて生活することになると思います。自分自身の健康管理だけではなく専門職として「ころとからだ」にどのような見解が必要かを考える機会になってほしいと思います。そのための話題提供を心がけ授業を進めたいと思います。

〔教員との連絡方法〕

講義の前後または教務課を通して連絡

〔参考 Web ページ〕

特になし

〔備考〕

特になし

【科目名】 ころのしくみ

Foundations of Psychology

【担当者名】 河合 由里

【開講学期】 前期・後期（半期）

【単位数】 2単位

【授業形態】 講義

【授業の概要】

この科目では、先ず心理学という学問の成り立ちや特徴・研究方法について学び、次に多数ある心理学の種類のうちから5～6種類の代表的な心理学について、有名な研究や基本的な知識を学んでいく。

【専門的学習成果】

- ・心理学成立の歴史と各心理学の特徴を理解する。
- ・各心理学の代表的な理論を理解する（基本的知識を得る）。
- ・心理学の理論を学ぶなかで、自己や他者理解を深める。

【汎用的学習成果】

・学びのなかで、自己や他者また人間関係（社会）に対する新しい気づきを得ること、またその気づきから考察を深めていくことや問題解決していく力を獲得する。

【事前履修が望ましい科目】

【授業計画】

- 1 私たちの生活と心理学について、心理テストをやってみる①
- 2 心理学の歴史と種類、研究方法
- 3 心理学の種類と特徴 1. 人の感覚・知覚と心理学①（視覚の問題）
- 4 心理学の種類と特徴 1. 人の感覚・知覚と心理学②（五感の特徴と問題）
- 5 心理学の種類と特徴 2. 人の行動と心理学①（記憶・学習）
- 6 心理学の種類と特徴 2. 人の行動と心理学②（学習・認知）
- 7 心理学の種類と特徴 3. 人の成長・発達と心理学①（認知の発達）
- 8 心理学の種類と特徴 3. 人の成長・発達と心理学②（人格の発達）
- 9 心理テストをやってみる②
- 10 心理テストをやってみる②続、解説とレポート課題の伝達
- 11 心理学の種類と特徴 4. ストレスとこころの問題①（心理臨床的理解と援助）
- 12 心理学の種類と特徴 4. ストレスとこころの問題②（心理臨床的理解と援助）
- 13 心理学の種類と特徴 5. 個人と社会の関係と心理学①（集団における認知）
- 14 心理学の種類と特徴 5. 個人と社会の関係と心理学②（社会的影響）
- 15 心理学の種類と特徴 5. 個人と社会の関係と心理学③（集団決定）

【授業方法】

講義を中心とするが、心理テストを実施するなど演習的な取り組みもする。

【授業外学習】

授業中期に心理テストを実施した際には、宿題として結果分析のレポート課題を出す。

【成績評価方法】

学習成果は、心理テスト関連レポート（20%）、定期試験（60%）、学期中の学習態度（回数、積極的態度、20%）によって、総合的に判断する。

【教科書】

特に教科書の指定は無いが、授業に必要な資料を配付する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【準備物】

受講に際しての準備物は特に必要としないが、受講後に復習して身につけた知識にすると日常に役立つ。

【教員からのメッセージ】

授業後やオフィスアワーを利用して積極的に質問したりするなどして、自ら学ぶ意欲と姿勢を高めてください。

【教員との連絡方法】

授業時以外は、先ず研究室を訪ねて来てください。

【参考 Web ページ】

【備考】

【科目名】 食と健康

Diet and Health

【担当者名】 石見 恵子

【開講学期】 前期・後期（半期）

【単位数】 2単位

【授業形態】 講義

【授業の概要】

高齢化が進み社会経済環境が変化していく中で、様々な健康問題が生じている。食は健康状態に大きな影響を与える因子であるので、健康増進のためには栄養・食生活の改善が大切である。本講座では生涯を健康で生き生きと過ごすために、食と健康に関する知識と考え方を学ぶ。

【専門的学習成果】

- 下記の3項目の専門知識と技能を身につける。
- (1) 日本における健康の現状を知り、健康に影響する食生活の現状について理解する。
 - (2) 健康を阻害する疾病の予防の方法を理解する。
 - (3) これからの食生活のあり方について理解する。

【汎用的学習成果】

健康増進のために栄養・食生活を改善する方法を獲得するとともに、食と健康に関しておこる様々な事象に対応していける科学的判断力を獲得する。

【事前履修が望ましい科目】

特になし

【授業計画】

- 1 私たちが置かれている食の現状
- 2 生活習慣病と食—生活習慣病とは、メタボリックシンドロームとは、生活習慣病各論
- 3 生活習慣病と食—生活習慣病各論
- 4 肥満とダイエット—肥満とは、肥満による影響、肥満の原因
- 5 肥満とダイエット—ダイエット、食事バランスガイド
- 6 食生活の乱れと健康リスク（アルコール、たばこ含む）
- 7 免疫と食物アレルギー
- 8 食品衛生と健康—食中毒
- 9 食品衛生と健康—化学物質による食品の安全性
- 10 食品表示—知っておきたい食品の表示
- 11 食品表示—アレルギー物質、有機農産物、遺伝子組み換え食品
- 12 食と子供の健康
- 13 食と女性の健康
- 14 健康食品
- 15 地球にやさしい食生活

【授業方法】

授業は毎回配布資料を用いて行う。
毎回講義の最後にブリーフレポートの提出を求める。

【授業外学習】

復習：当該授業の理解度をチェックするために、授業最後にブリーフレポートの提出を求める。更に授業内容の理解を深め発展させるために、宿題としてのレポートを課す。

【成績評価方法】

学習成果は期間中のレポート提出（40%、2回実施）、授業最後に行うブリーフレポートの提出（60%、毎回実施）によって総合的に評価する。期間中のレポート提出は必須であり、提出がなされない場合は単位認定を行いません。

【教科書】

特になし

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【準備物】

【教員からのメッセージ】

女性の平均寿命が86歳を超えた今、「食」について考えずに暮らしていくことはできません。自分や自分の身近にいる人々の健康のために、そして就職してから必要となる「食」について一緒に学んでいきましょう。

【教員との連絡方法】

教務課を通して連絡

【参考 Web ページ】

【備考】

〔科目名〕 笑い与健康

The Laughter & Health

〔担当者名〕 笠井 正樹

〔開講学期〕 前期・後期（半期）

〔単位数〕 2単位

〔授業形態〕 講義

〔授業の概要〕

医笑同源：病気を治すのも食事をするのも、笑うのも生命を養い健康を保つ為で、その本質は同じです。

今回、笑い（ユーモア）が、健康で心豊かな遊びのある生活を実現するために如何に重要であるのかを理解し、笑いの効用を中心に、ユーモアを楽しみ・創り・話す事の楽しさを実践しているユーモア人財を育成します。

ユーモア人財は、変化にもすばやく対応し、ストレスにも強く、新しい発想ができ、人間力溢れる人財であり、仕事を楽しみ、人生を面白く生き、活気ある社会（職場）をつくる一躍を担います。

〔専門的学習成果〕

1. 笑い（ユーモア）は、免疫力を上げ、ストレス解消になり「人間は笑わなくてはいけない」事が理解でき、これからの健康長寿社会の一躍を担う人財となります。
2. 笑い（ユーモア）は、楽しく豊かに生きる為のコミュニケーション、マネジメントの基本である事が理解でき、「また会いたくなる人財」となり、仕事や人生が楽しくなります。
3. 笑い（ユーモア）は、脳を活性化し創造力を養い、新しい発想により、人生が面白くなります。

〔汎用的学習成果〕

笑い（ユーモア）を楽しみ、創り、話す事の実践から、論理的思考力、コミュニケーションスキル、チームワークを高める力、リーダーシップ力を獲得する。

〔事前履修が望ましい科目〕

〔授業計画〕

- 1 はじめに。笑いとは。おりこみ自己紹介。
- 2 ペンネームのすすめ。オアシス運動。コミュニケーションゲーム。
- 3 笑いの分類。笑いの効用。笑いの実践。
- 4 人間関係と笑い。コミュニケーションの基本。
- 5 健康とストレス。ストレス解消法。
- 6 笑いのハーモニー1（顔が笑う）。幸せ感を楽しむ。
- 7 笑いのハーモニー2（脳が笑う）。川柳、なぞかけを楽しむ。
- 8 笑いのハーモニー3（脳が笑う）。クイズ、雑学を楽しむ。
- 9 笑いのハーモニー4（心が笑う）。五感を磨き感性を高める。
- 10 楽しい授業での笑い。（作品発表）
- 11 健康法、健康を創る。笑い（ユーモア）を活かす健康生活。
- 12 街中のユーモア。大阪商人から学ぶ。
- 13 日常生活、言葉での笑い。
- 14 また会いたくなる人財とは（社会が求める人財とは）
- 15 「私の夢」— 己の目指す人生

〔授業方法〕

講義／演習／グループワーク／ロールプレイ／口頭発表

〔授業外学習〕

随時 必要に応じて実施する

〔成績評価方法〕

- ・平常点評価（発表力、参加態度など）（30%）
 - ・学期中の課題・作品の評価（30%）
 - ・期末試験（40%）
- 総合的に評価をする。

〔教科書〕

使用しない

〔参考書〕

〔準備物〕

〔教員からのメッセージ〕

人生を楽しく、面白く生きる為に、いつも「己は何なのか・自分らしさとは」を笑顔（いい顔）で追求してほしい。

〔教員との連絡方法〕

教務課を通して連絡

〔参考 Web ページ〕

〔備考〕

〔科目名〕健康とスポーツ I

Sports and Health I

〔担当者名〕久米 雅

〔開講学期〕1年次 前期

〔単位数〕2単位

〔授業形態〕実技

〔授業の概要〕

健康志向が高まる近年において、自らが運動・スポーツを理解し、実践することが求められています。また、これらの習慣化は今後の生活に影響を及ぼすと言われていることから重要視されています。そこで、専門的なエクササイズ（有酸素運動、自重エクササイズ等）や球技、ラケットスポーツの様に幅広く学習することで自分に合った身体活動と健康に関する適切な知識・方法を身につけることを目標とします。

〔専門的学習成果〕

下記に示す専門的知識と技能を身につける。

1. 運動・スポーツを生涯にわたって行うことの重要性を理解する。
2. 健康の保持・増進を目的とした適切で安全な運動方法を身につける。
3. 自分に対して適切なエクササイズを選択できる知識を身につける。

〔汎用的学習成果〕

健康の保持・増進を目的とした運動を通して、チームで課題に取り組み、成果に貢献しようとするチームワークや円滑な団体行動を実行するために必要なコミュニケーション・スキルを獲得する。

〔事前履修が望ましい科目〕

特になし

〔授業計画〕

- 1 オリエンテーション
- 2 体力測定
- 3 ジョギング・ウォーキング時における有酸素性作業能力の評価
- 4 道具を用いない運動 1
- 5 道具を用いない運動 2
- 6 静的・動的ストレッチング
- 7 自重エクササイズ
- 8 屋内球技 1
- 9 屋内球技 2
- 10 バランストレーニング 1
- 11 バランストレーニング 2
- 12 屋内ラケットスポーツ 1
- 13 屋内ラケットスポーツ 2
- 14 プライオメトリクス
- 15 体力測定

〔授業方法〕

実技により授業を展開し、必要に応じて資料を配布する。

〔授業外学習〕

授業に関する理解度を一層深めるために、準備学習（予習・復習）を行い、その方法は授業内で配布した資料を用いて行うこととする。

〔成績評価方法〕

学習の成果は実技試験（40%）、レポート（20%、2回実施）、出席・授業態度（40%）によって総合的に評価する。また、受講中の私語や非協力的態度が多い場合には減点することがある。

〔教科書〕

特になし

〔参考書〕

健康運動実践指導者養成用テキスト（健康・体力づくり事業財団 発行）

NSCA パーソナルトレーナーのための基礎知識（NSCA ジャパン 発行）

〔準備物〕

初回から運動を行うので、各自運動のできる服装とシューズ（体育館用）を準備すること。

〔教員からのメッセージ〕

運動の目的はたくさんありますが、本講義では健康を保持・増進するための運動方法と知識の両方を学習していきます。専門的なものから一般的なものまでありますが、その中から自分が長く継続できるもの、楽しくできるものを組み合わせて将来の健康に役立ててもらいたいです。

〔教員との連絡方法〕

授業終了後または M504 研究室

〔参考 Web ページ〕

（財）健康・体力づくり事業財団（健康ネット）

<http://www.health-net.or.jp>

NSCA ジャパン <http://www.nasca-japan.or.jp/>

NSCA（米国本部）<http://www.nasca-lift.org/>

〔備考〕

〔科目名〕健康とスポーツⅠ
Sports and HealthⅠ

〔担当者名〕橋元 真央

〔開講学期〕1年次 前期

〔単位数〕2単位

〔授業形態〕実技

〔授業の概要〕

近年、健康や体力の保持増進を目的に、運動やスポーツの習慣化が求められています。しかしながら、不適切な動きや知識の不足が原因で、ケガや障害を生じるケースも多く存在します。また、加齢に伴う身体機能（特に、筋力、柔軟性）の低下と身体構造（体脂肪の増加、血管の弾性低下）の変化を正しく理解し、適切な運動やスポーツを実施する必要があります。そこで本授業では、正しい動きとその方法を身につけ、身体を動かす楽しさと伝える喜びを学びます。

〔専門的学習成果〕

下記の3項目に関する専門技能を身につける。

1. 各種ストレッチングの方法とその指導法を理解する。
2. 有酸素運動の重要性と運動方法を理解する。
3. 球技系・ラケット系スポーツのスキルを習得する。

〔汎用的学習成果〕

健康の保持・増進を目的とした運動を通して、チームで課題に取り組み、成果に貢献しようとするチームワークや円滑な団体行動を実行するために必要なコミュニケーション・スキルを獲得する。

〔事前履修が望ましい科目〕

特になし

〔授業計画〕

- 1 ウォームアップとクールダウン
- 2 体操とウォームアップ
- 3 ストレッチングの実際Ⅰ
- 4 ストレッチングの実際Ⅱ
- 5 ストレッチングの実際Ⅲ
- 6 ウォーキングの実際Ⅰ
- 7 ウォーキングの実際Ⅱ
- 8 エアロビクストレーニングの実際Ⅰ
- 9 エアロビクストレーニングの実際Ⅱ
- 10 サーキットトレーニングの実際
- 11 球技系スポーツⅠ
- 12 球技系スポーツⅡ
- 13 ラケット系スポーツⅠ
- 14 ラケット系スポーツⅡ
- 15 指導実技

〔授業方法〕

実技による授業を実施し、必要に応じて資料を配布する。

〔授業外学習〕

毎回の授業において学習した内容は、必ず復習段階において指導法へと変換すること。

〔成績評価方法〕

学習の成果は授業内実技試験（40%）、レポート（20%）、出席・授業態度（40%）によって総合的に評価する。また、受講中の私語、非協力的態度や運動着、体育館履等の忘れ物等が多い場合には減点することがある。

〔教科書〕

使用しない

〔参考書〕

特になし

〔準備物〕

各自、運動のできる服装とシューズ（体育館用とグラウンド用）を準備すること。

〔教員からのメッセージ〕

〔教員との連絡方法〕

教務課を通して連絡

〔参考 Web ページ〕

〔備考〕

〔科目名〕健康とスポーツⅡ
Sports and HealthⅡ

〔担当者名〕山岡 憲二

〔開講学期〕前期・後期（半期）

〔単位数〕2単位

〔授業形態〕講義

〔授業の概要〕

現代社会の科学技術の著しい発展及び交通機関の進歩が、日常の生活様式及び生活活動水準を低下させた。このような活動水準の低下は運動不足を招き、生活習慣病の一因となる。この現状を回避するには、各個人が体力及び健康に対して正しい知識を身に付け、適切な生活習慣及び運動を実施することである。そこで生涯を通して体力向上、健康な生活を営むための日常生活での構えや、身体活動の重要性などを論じて自分自身の健康観の確立を図ることを目標とする。

〔専門的学習成果〕

下記の専門的知識を身につける。

1. 生涯に対して各年代のライフステージの健康法のあり方を理解し、現状を分析し、課題を理解する。
2. 健康な生活を営むための日常生活の構えの中で生活習慣病・疾病等の予防の方法を理解する。
3. 日々の身体活動の重要性を理解し、計画的に立案し、行動できる能力を養い、自分自身の健康法を明確にし、理解する。

〔汎用的学習成果〕

生涯に渡り、自分自身の健康生活を送るためには、生活習慣病・疾病に対する情報を正確に分析し、適切な予防法を理解する。また、健康生活を得るためには、個人の体力向上のための適切な運動処方等を立案できる理論的思考力を理解する。

〔事前履修が望ましい科目〕

〔授業計画〕

- 1 健康の意義について
- 2 健康の意義について
- 3 健康論（観）についての諸説
- 4 健康論（観）についての諸説
- 5 健康論（観）についての諸説
- 6 WHOの保健憲章と健康観について
- 7 WHOの保健憲章と健康観について
- 8 日本人の健康の現状と課題
- 9 日本人の健康の現状と課題
- 10 健康成立のための条件について
- 11 健康成立のための条件について
- 12 健康とスポーツ、体育及びレクリエーション活動
- 13 健康とスポーツ、体育及びレクリエーション活動
- 14 健康法の設定と実際Ⅰ
- 15 健康法の設定と実際Ⅱ

〔授業方法〕

講義形式

〔授業外学習〕

- ①プリントを使用して授業計画に沿って行う。
- ②豊かな時代の中でもう一度、生涯のライフステージでの健康の意義を日常生活から考えていきたいものである。
- ③各週予習に重点を置いて、復習では講義内容の再確認を最低限度行うこと。様々な情報を通して興味関心を持ち、考える習慣をつけること。

〔成績評価方法〕

学習の成果は、筆記試験（80%）、レポート（1回）（20%）、によって総合的に評価する。また、受講中の問題行動（私語、居眠り、比協力的態度等）については、減点する場合がある。

〔教科書〕

〔参考書〕

『保健体育理論』平井新司、山岡憲二共著（嵯峨野書院）『女性のライフステージからみた身体活動と健康』宮下充正監修（杏林書院）『健康と体力科学』中村誠、岩波力編（杏林書院）『女性のスポーツ生理学』C. L. ウェルス著、宮下充正訳（大修館書店）『体組織とウェイトコントロール』北川薫著（杏林書院）

〔準備物〕

〔教員からのメッセージ〕

〔教員との連絡方法〕

〔参考 Web ページ〕

〔備考〕

〔科目名〕宇治学

Dynastic Literature of Uji

〔担当者名〕森川 知史

〔開講学期〕後期

〔単位数〕2単位

〔授業形態〕講義

〔授業の概要〕

本学は宇治にあるが、宇治には長い歴史があり、政治・経済・文化のあらゆる面で学ぶべき奥深いものがあふれている。

各界の外部講師をお招きして、できるだけ多面的に宇治について掘り下げてみたい。

〔専門的学習成果〕

下記の3項目の専門知識と体験成果を得る。

1. 宇治の歴史と現在を知る。
2. 長い京都の歴史の中で宇治が占める位置について理解する。
3. 自ら宇治の地を歩くことで、種々の知見を得る。

〔汎用的学習成果〕

下記の3項目の汎用的学習成果を得る。

1. 様々な講師の話聞き理解する。
2. 自身の興味関心に従って、未知の地を歩く。
3. 15回の種々の聴講・体験を総合的にまとめる。

〔事前履修が望ましい科目〕

特になし

〔授業計画〕

- 1 全体のガイダンス
- 2 京都の歴史と宇治の歴史
- 3 宇治という地の歴史的意味
- 4 宇治と信仰
- 5 宇治と観光 (1)
- 6 宇治と観光 (2)
- 7 宇治と文学 (1)
- 8 宇治と文学 (2)
- 9 宇治の景観と町づくり
- 10 宇治とお茶
- 11 フィールドワークと報告書作成 (1)
- 12 フィールドワークと報告書作成 (2)
- 13 フィールドワークと報告書作成 (3)
- 14 発表とまとめ (1)
- 15 発表とまとめ (2)

〔授業方法〕

15回の授業のうち後半の11回目以降は、自ら宇治の地を散策して報告書を書く。最後の14回・15回は、その報告書や写真等をパワーポイントを使ってみんなの前で発表してもらう。

〔授業外学習〕

宇治についてのさまざまな内容を学ぶことになるので、自分でも本やネットで調べてみるのが望ましい。

〔成績評価方法〕

学期末試験 50%
 毎講義の提出物 25%
 平常点評価 25%

〔教科書〕

指定なし

〔参考書〕

授業中に適宜紹介する。

〔準備物〕

必要に応じて指示する。

〔教員からのメッセージ〕

外部講師に依頼してできるだけ多く専門の立場からの話が聞けるようにしたいと考えている。

〔教員との連絡方法〕

オフィスアワー（研究室に在室・短大教務課に問い合わせてください）

〔参考 Web ページ〕

必要に応じて適宜示す。

〔備考〕

〔科目名〕 音楽のよろこび

Music Appreciation

〔担当者名〕 宮島 幸子

〔開講学期〕 前期・後期（半期）

〔単位数〕 2単位

〔授業形態〕 講義

〔授業の概要〕

音楽の歴史は極めて古く、社会や生活と深く関わりながら、世界中の国々で独自の音楽文化が生まれてきました。一方、マス・メディアの発達によりいつでも、どこでも、どんなジャンルの音楽でも簡単に聞くことができるようになり、音楽はグローバル化してきています。この講義では、私たちを取り巻く音・音楽についてフィールド・ワークや課題レポートなどを通じて「音楽のよろこびとはなにか」を考えていきます。

〔専門的学習成果〕

音楽とは音を感じとることのよろこびであり、音楽のよろこびは感動です。「私たちはどんな音・音楽環境の中で暮らしているのか」ということに問題意識をもって取り組み、音・音楽に対する関心を醸成していきます。

〔汎用的学習成果〕

音、音楽に関して興味を持ったことを調べ、発表することにより、お互いに新たな音・音楽の価値観を共有し、興味の幅を広げていきます。

〔事前履修が望ましい科目〕

〔授業計画〕

- 1 (テーマ) 音楽雑学
(内容) 授業の進め方の説明
音楽に関する最近の話題
- 2 (テーマ) 生活の中の音・音楽 (1)
(内容) 目に見えない音や音楽を意識して「聴く」と「聞く」を考えます。
- 3 (テーマ) 生活の中の音・音楽 (2)
(内容) サウンド・スケープとは。
- 4 (テーマ) ピアノの歴史
(内容) 「楽器の王様」ピアノの歴史と変遷を映像を見ながら解説していきます。
- 5 (テーマ) 作曲家とピアノ曲
(内容) 「ピアノの詩人」ショパンの人生を辿っていきます。
- 6 (テーマ) 憧れのピアノ曲
(内容) ショパンのピアノ曲を解説をまじえて紹介します。
- 7 (テーマ) 校歌の文化的役割
(内容) 校歌の歴史と歌うことの意義。
- 8 (テーマ) 海外に紹介したい日本の音楽
(内容) みなさんから寄せられた海外に紹介したい「日本の音楽」の集計に基づいて「日本らしい音楽」「日本人の感性に添う音楽」とはどんな音楽なのか考えていきます。
- 9 (テーマ) Cool! Wedding Melody
(内容) 人生最高のセレモニーに選ばれた音楽を紹介します。また、ワーグナーとメンデルスゾーン「結婚行進曲」についても紹介します。
- 10 (テーマ) オペラ
(内容) ヨーロッパの歴史あるオペラハウスの舞台裏など映像を通して説明します。
- 11 (テーマ) オペラ鑑賞
(内容) 「愛の妙薬」(DVD)
- 12 (テーマ) 歌舞伎
(内容) 歌舞伎の歴史と鑑賞法について映像を通して述べます。
- 13 (テーマ) 歌舞伎鑑賞
(内容) 「暫」(DVD)
- 14 (テーマ) 民謡
(内容) 日本各地にある民謡を解説をまじえて紹介します。
- 15 (テーマ) 世界無形文化遺産
(内容) 伝統を守るということについて考えます。

〔授業方法〕

毎授業の始めに「私の好きな音楽」と「音さがし」について発表していただきます。発表者には受講生からの感想をフィードバックします。

授業はシラバスに沿って資料を配布します。また、受講生を対象としたアンケートの結果なども活用します。

〔授業外学習〕

- ①事前に資料を配布しますので、内容をよく把握しておくこと。
- ②予習課題についてレポートすること。

〔成績評価方法〕

レポートおよびフィールドワーク (60%)、「私の好きな音楽」と「音さがし」の発表 (20%)、積極的な授業への参加度 (20%)

〔教科書〕

〔参考書〕

〔準備物〕

〔教員からのメッセージ〕

たくさんの音楽に出会えるオリジナリティーあふれる授業にしましょう。

〔教員との連絡方法〕

〔参考 Web ページ〕

〔備考〕

〔科目名〕美術演習

Exercise of Painting

〔担当者名〕津田 直樹

〔開講学期〕前期

〔単位数〕2単位

〔授業形態〕演習

〔授業の概要〕

学内の畑で夏野菜（とまと、なす、きゅうり等）を栽培しながらそれらの成長過程（花、実）や昆虫たちの生きる姿をパステル、墨、絵の具などで写生し表現することの楽しさを味わう。又、収穫した野菜をモチーフとして日本画の顔料で扇面や絵絹、真紙板に絵画制作し合評会を行う。

〔専門的学習成果〕

1. 写生を重ね 描画力の向上をはかりモチーフの必然性を理解する
2. 日本画々材による基礎的な表現技法や表現様式について理解を深める
3. 美術作品を鑑賞する態度を養う

〔汎用的学習成果〕

1. 言葉、行動、芸術等に不可欠な豊かな感性と発想と創造力養う
2. 柔軟な発想による創作力や応用力、計画性を身につける
3. 野菜栽培を通して植物、昆虫との触れあいの中で命の大切さについて理解を深める

〔事前履修が望ましい科目〕

特になし

〔授業計画〕

- 1 絵画の様々な表現とその方法 様々な画材と技法 モチーフについて
- 2 畑で苗を植える 苗のスケッチ 植え付け 色鉛筆
- 3 静物写生 鉛筆 水彩絵の具
- 4 静物写生 構図 淡彩
- 5 静物写生 完成 鑑賞
- 6 デッサン 缶とパン 鉛筆 形、質感、量感、陰影
- 7 建物を描く 透視法 鉛筆
- 8 日本画 水干絵の具の使い方 色紙に描く
- 9 パネル制作 写生 野菜の形体と色
- 10 制作 形の転写 骨描き 隈取り
- 11 制作 胡分 下塗り 着色
- 12 制作 着色 塗り重ね
- 13 制作 着色 調和
- 14 制作 着色
- 15 仕上げと合評

〔授業方法〕

演習

前半は畑で野菜を栽培し、成長する過程を観察しながら写生する。後半は野菜の収穫と、室内で日本画々材による絵画制作を試みる。

〔授業外学習〕

授業外には野菜栽培に専念する。又、観察スケッチも欠かせません。

〔成績評価方法〕

学習の成果は、提出された平常作品の成績（70%）と、授業への積極的な取り組み態度（30%）によって総合的に評価する。

〔教科書〕

特になし

〔参考書〕

特になし

〔準備物〕

スケッチブックと鉛筆、絵の具が必要。1回目の授業で説明。

〔教員からのメッセージ〕

構えることなく楽しんで表現をしてみよう。畑作業が苦手だと思っている人は好きになってほしい。

〔教員との連絡方法〕

教務課を通して連絡

〔参考 Web ページ〕

特になし

〔備考〕

受講生数は、20名までとする。

〔科目名〕エンタテインメント演習

Entertainment Maneuver

〔担当者名〕梶田明子・河田洋志・紀平眞理子

〔開講学期〕前期

〔単位数〕2単位

〔授業形態〕演習

〔授業の概要〕

エンタテインメントとは、人を惹きつけ、楽しませる行為——社会生活を円滑に送る上で重要な役割を果たすものである。本演習では、エンタテインメントの一分野である演劇を中心に据え、自己を表現する力、人を惹きつけ楽しませる表現力を、講義と併せて実践しながら学習する。

〔専門的学習成果〕

主に下記の3項目を講義、実践を通じて学習する。

1. 人間生活に於ける言葉の重要性和特性を理解する。
2. 心と身体がどのようにつながり、相互に影響しあっているかを理解する。
3. 表現する事のおおもとは何かを考察し理解する。

〔汎用的学習成果〕

学生一人一人がもつ人間力を向上させる事で、個々に自信と自覚を持てる様にする。

自己表現の最たるものであるコミュニケーション能力を向上させる。

その為に、様々な実践を通じて自己の感性（心）を磨き豊かにしてゆく。

〔事前履修が望ましい科目〕

〔授業計画〕

- 1 授業ガイダンス・作文と自己紹介・言葉の特性 I
- 2 言葉の特性 II：実験と理論・声出し（発声）について：理論と実践
- 3 基礎訓練の必要性・共通性と独自性・観察の要点：市場観察について
- 4 集団エチュード・裏づけ（言葉と行動の解明）・無対象生活について
- 5 学内探訪（気づく心）・共通語と方言
- 6 腹式呼吸の必要性和効用：理論と実践
- 7 体のくせの修正：美しい姿勢をキープ・女子力アップ
- 8 グループワーク① 4W1Hをさがせ！：観察力・考察力・洞察力の習得
- 9 グループワーク② 話上手は聴き上手：情報収集・整理・分析・構成・表現力を高める
- 10 自己分析・3分間スピーチ（魅力ある自分を・・・）
- 11 感情開放と表現：無対象生活（実践）・他者と自己の観察
- 12 読みの課題 I：本の全容を把握・言葉以外での表現・気配を感じる
- 13 読みの課題 II：本の中の役割を分担・誘導エチュード・声に心をのせる
- 14 読みの課題 III：声と身体での表現・即興エチュード・イメージの共有
- 15 読みの課題 IV：発表・授業のまとめ：これからの為に

〔授業方法〕

実践と理論を併行して、より理解し易く進行していく。又、市場見学など、興味をもって実社会学習が出来るようにする。

〔授業外学習〕

課題の感想文やレポート、市場などへ赴いての体験学習などあり。また授業内で適宜予習・復習を課すので、それに積極的に取り組んでほしい。

〔成績評価方法〕

授業内でのレポート提出、実技、観察発表など —— 60%
受講態度（能動性・積極性を評価） —— 40%

〔教科書〕

〔参考書〕

〔準備物〕

〔教員からのメッセージ〕

やれる・やれないより、如何に取り組むか、やろうと努力するかが大切です。

〔教員との連絡方法〕

教務課を通して連絡

〔参考 Web ページ〕

〔備考〕

常に実践と並行するので、運動出来る服装が必要。

〔科目名〕エンタテインメント演習

Entertainment Maneuver

〔担当者名〕梶田明子・河田洋志・紀平真理子

〔開講学期〕後期

〔単位数〕2単位

〔授業形態〕演習

〔授業の概要〕

エンタテインメントとは、人を惹きつけ、楽しませる行為——社会生活を円滑に送る上で重要な役割を果たすものである。本演習では、エンタテインメントの一分野である演劇を中心に据え、自己を表現する力、人を惹きつけ楽しませる表現力を、講義と併せて実践しながら学習する。

〔専門的学習成果〕

主に下記の3項目を講義、実践を通じて学習する。

1. 人間生活に於ける言葉の重要性と特性を理解する。
2. 心と身体がどのようにつながり、相互に影響しあっているかを理解する。
3. 表現する事のおおもとは何かを考察し理解する。

〔汎用的学習成果〕

学生一人一人がもつ人間力を向上させる事で、個々に自信と自覚を持てる様にする。

自己表現の最たるものであるコミュニケーション能力を向上させる。

その為に、様々な実践を通じて自己の感性（心）を磨き豊かにしてゆく。

〔事前履修が望ましい科目〕

〔授業計画〕

- 1 授業ガイダンス・作文と自己紹介・言葉の特性 I
- 2 言葉の特性 II：実験と理論・声出し（発声）について：理論と実践
- 3 基礎訓練の必要性・共通性と独自性・観察の要点
- 4 観客完全参加の終日野外劇『町かどの藝能』鑑賞
- 5 観客完全参加の終日野外劇『町かどの藝能』鑑賞
- 6 演劇の四大要素・共通性と独自性・無対象生活について
- 7 腹式呼吸の必要性と効用・体のくせの修正で女子力アップ：理論と実践
- 8 グループワーク① 4W1H をさがせ！：観察力・考察力・洞察力の習得
- 9 グループワーク② 話上手は聴き上手：情報収集・整理・分析・構成・表現力を高める
- 10 自己分析・3分間スピーチ（魅力ある自分を・・・）
- 11 感情開放と表現：無対象生活（実践）・他者と自己の観察
- 12 読みの課題 I：本の全容を把握・言葉以外での表現・気配を感じる
- 13 読みの課題 II：本の中の役割を分担・誘導エチュード・声に心をのせる
- 14 読みの課題 III：声と身体での表現・即興エチュード・イメージの共有
- 15 読みの課題 IV：発表・授業のまとめ：これからの為に

〔授業方法〕

実践と理論を併行して、より理解し易く進行していく。又、『町かどの藝能』鑑賞など、心と身体で学習が出来るようにする。

〔授業外学習〕

課題の感想文やレポート、『町かどの藝能』鑑賞等の課外学習などあり。また授業内で適宜予習・復習を課すので、それに積極的に取り組んでほしい。

〔成績評価方法〕

授業内でのレポート提出、実技、観察発表など —— 60%

受講態度（能動性・積極性を評価） —— 40%

〔教科書〕

〔参考書〕

〔準備物〕

〔教員からのメッセージ〕

やれる・やれないより、如何に取り組むか、やろうと努力するかが大切です。

〔教員との連絡方法〕

教務課を通して連絡

〔参考 Web ページ〕

〔備考〕

常に実践と並行するので、運動出来る服装が必要。

〔科目名〕異文化理解

Intercultural Communication An Understanding of Different Cultures

〔担当者名〕小河 尚子

〔開講学期〕前期

〔単位数〕2単位

〔授業形態〕講義

〔授業の概要〕

海外研修カナダ短期留学参加希望者を対象とした授業である。北米文化と日本文化との相違点、共通点をもとに比較し、その文化圏の人々の習慣、価値観、行動などを理解する。学科/専攻に関連するテーマを選び、表面的には見えてこない日本とカナダの文化の歴史的・思想的背景を探る。

〔専門的学習成果〕

下記の3項目の専門知識と技術を身につける。

1. 多文化共生に向けてもとめられる互いの文化を認めるために必要な知識、理解するために必要な方法を身につける
2. 多文化を認めるためには互いの文化とアイデンティティを知ること、互いの歴史的伝統、多元的な価値観を学び、尊重し、違いを認めることの重要性を理解する。
3. そのために必要なのは自己の文化を探究し、客観的にとらえる、それを海外研修において互いの文化についての学び理解する姿勢と力を身につける。

〔汎用的学習成果〕

多文化共生に向けて、まず自己文化を客観的にとらえ、文化間の多様性・異質性を認め受容する姿勢と力を身につける。

〔事前履修が望ましい科目〕

〔授業計画〕

- 1 イントロダクション：日加文化比較に備える総合プログラムの説明、カナダ短期留学までの流れ
- 2 文化とは何か
- 3 価値観と偏見、文化相対主義
- 4 衣食住の文化
- 5 人間関係の文化
- 6 遊びと仕事の文化
- 7 プロジェクトのテーマ発表
- 8 異文化間コミュニケーション
- 9 言語とその文化背景
- 10 言語的コミュニケーションのルール
- 11 非言語的コミュニケーションのルール
- 12 プロジェクトの口頭発表 (1)
- 13 プロジェクトの口頭発表 (2)
- 14 プロジェクトの口頭発表 (3)
- 15 プロジェクト後半に向けて：海外研修のプロジェクトとなる「異文化理解」で取り組んだプロジェクトの後半（現地における調査）に向けて

〔授業方法〕

夏期の海外（カナダ）研修履修者が必須の科目でもあり、北米文化を中心に様々なテーマにおいて日本の文化との比較を行う。各自、自分の専攻にそったテーマを選び、日本・カナダの比較調査をし、発表する。夏期海外研修に課題として同じテーマのカナダに関する更なる調査を行うことになる。

〔授業外学習〕

海外研修につながる科目であり、北米との文化比較のプロジェクトの前半をこの授業で、そして後半を海外研修で完成させるので、日本文化を客観的に見つけ、異文化に常に関心をもって授業に臨んでほしい。

〔成績評価方法〕

課題（20%）、口頭発表（30%）、そしてレポート（40%）と授業参加度（10%）によって総合的に評価する。

〔教科書〕

〔参考書〕

〔準備物〕

〔教員からのメッセージ〕

〔教員との連絡方法〕

M513 研究室

〔参考 Web ページ〕

〔備考〕

〔科目名〕異文化理解

Intercultural Communication An Understanding of Different Cultures

〔担当者名〕ブッセル 良風

〔開講学期〕前期

〔単位数〕2単位

〔授業形態〕講義

〔授業の概要〕

他国の文化を理解するために、その国の生活や習慣、食物などを通して、英語圏だけではなく欧州文化への理解も深める。

〔専門的学習成果〕

教員自らが生まれ育った、欧州の国々についての文化理解ができる。

日本文化と各々の国の相違点を発見する。

〔汎用的学習成果〕

英語圏だけではなく、様々な国の文化、慣習、価値観などを理解するとともに、一方通行の異文化理解では無い、他国の人々の日本に対する心情も知ることが出来る。

〔事前履修が望ましい科目〕

〔授業計画〕

- 1 イントロダクション
- 2 自己紹介、国々からのあいさつ
- 3 ドイツ
- 4 スイス
- 5 ルクセンブルク
- 6 大学生活
- 7 世界の食べ物
- 8 南アフリカ
- 9 カリブ海
- 10 ノルウェー
- 11 EU 欧州連合について
- 12 持ち物とギフト
- 13 発表1
- 14 発表2
- 15 自身の異文化理解度を分析し、レポートを提出する。

〔授業方法〕

映像、オーディオ、パンフレット等を用いる。
国は変更される場合もある。
講義は英語も混ぜる。

〔授業外学習〕

各国大使館からの、パンフレット及び書類をしっかりと熟読する。

〔成績評価方法〕

レポート 50%、発表 30%、口頭試問 10%、受講態度、参加度 10% により総合的に評価する。

〔教科書〕

〔参考書〕

〔準備物〕

〔教員からのメッセージ〕

ドイツ人であり、英語圏の学位を複数取得しており、各国の友人も多いため、今現在の文化理解が、オンタイムで学ぶ事ができます。

〔教員との連絡方法〕

M506 研究室

〔参考 Web ページ〕

〔備考〕

〔科目名〕異文化理解

Intercultural Communication An Understanding of Different Cultures

〔担当者名〕小河 尚子

〔開講学期〕後期

〔単位数〕2単位

〔授業形態〕講義

〔授業の概要〕

授業の前半は人間と動物とのかかわりを通して形成された異文化間の動物観について学び、後半は映画、CM などにあらわれる異文化の動物観とその普遍性を探る。

〔専門的学習成果〕

下記の3項目の専門知識と技術を身につける。

1. 多文化共生に向けてもとめられる互いの文化を認めるために必要な知識、理解するためには互いの文化とアイデンティティを知る
2. 多文化を認めるためには互いの文化とアイデンティティを知ること、互いの歴史的伝統、多元的な価値観を学び、尊重し、違いを認めることの重要性を理解する。
3. そのために必要なのは自己の文化を探究し、客観的にとらえ、理解する姿勢と力を身につける。

〔汎用的学習成果〕

多文化共生に向けて、まず自己文化を客観的にとらえ、文化間の多様性・異質性を認め受容する姿勢と力を身につける。

〔事前履修が望ましい科目〕

〔授業計画〕

- 1 イントロダクション、各自の異文化体験を考える
- 2 文化とは何か。動物観とは。
- 3 ひとと動物の関係と価値観、偏見、文化相対主義
- 4 ひとと動物の関係と衣食住文化
- 5 動物の擬人化の文化比較
- 6 映画 (1) (ペット文化と異文化理解) 映画の背景と映画鑑賞
- 7 映画 (1) (ペット文化と異文化理解) 映画の背景と映画鑑賞
- 8 映画 (2) (動物アニメとペット文化) 映画の背景と映画鑑賞
- 9 映画 (2) (動物アニメとペット文化) 映画の背景と映画鑑賞
- 10 映画 (3) (映画にみる擬人化) 映画の背景と映画鑑賞
- 11 映画 (3) (映画にみる擬人化) 映画の背景と映画鑑賞
- 12 映画 (4) (映画にみる動物観：いのち、死) 映画の背景と映画鑑賞
- 13 映画 (4) (映画にみる動物観：いのち、死) 映画の背景と映画鑑賞
- 14 CM (5) 動物のCM から見る異文化理解
- 15 CM (5) 動物のCM から見る異文化理解

〔授業方法〕

〔授業外学習〕

異文化に関する新聞記事を授業で報告するという課題に備え、日頃から異文化に関心を持って授業に臨んでほしい。

〔成績評価方法〕

授業参加度と課題 (50%)、試験 (50%) によって総合的に評価する。

〔教科書〕

〔参考書〕

〔準備物〕

〔教員からのメッセージ〕

〔教員との連絡方法〕

M513 研究室

〔参考 Web ページ〕

〔備考〕

〔科目名〕異文化理解

Intercultural Communication An Understanding of Different Cultures

〔担当者名〕林 雅清

〔開講学期〕後期

〔単位数〕2単位

〔授業形態〕講義

〔授業の概要〕

日本を含む東洋は、漢字文化圏であり、仏教文化圏であり、儒教文化圏でもある。その中心的存在が「中国」。中国文化は日本文化の母なる存在である。ただ、いくら「母」とはいえ、中国文化はやはり「異文化」。この授業では、中国の社会や風土、歴史や思想をはじめ、現代中国の若者文化やサブカルチャーなども紹介しながら、さまざまな角度から隣国「中国」にアプローチしていく。

〔専門的学習成果〕

- ①中国に関する基礎知識が身につく。
- ②中国に関して正確な情報収集ができる。
- ③中国文化と日本文化の違いや共通点を認識し、異文化間において生じる問題等について正しく理解できる。

〔汎用的学習成果〕

異文化間において発生する問題を正しく理解し、問題解決に向けた情報を収集できる力を獲得することにより、問題発見・解決力が身につく。また、異なる環境に暮らす人々の現状を知ることにより、意見の違いや立場の違いを理解する力が身につく。

〔事前履修が望ましい科目〕

特になし

〔授業計画〕

- 1 イントロダクション～日本と中国～
- 2 中国文化とは
- 3 中国の地理と風土
- 4 中国の民族
- 5 中国の言葉と文字①
- 6 中国の言葉と文字②
- 7 中国の思想と宗教
- 8 中国の歴史①
- 9 中国の歴史②
- 10 現代中国①～映画「芙蓉鎮」(前半)～
- 11 現代中国②～映画「芙蓉鎮」(後半)～
- 12 現代中国③～文化大革命とその後～
- 13 中国の都市と学生生活
- 14 中国の音楽～伝統音楽とC-POP～
- 15 総括～「中国」という異文化を理解するために～

〔授業方法〕

板書・プリント・映像資料等を用いて講義を進めていく。また、随時課題や感想文の提出も求める。

〔授業外学習〕

毎回の授業の内容をノートにまとめ、復習に力を入れること。また、授業中に出された課題をきちんとこなし、時事問題等を通して中国に対する興味心を深めていくよう心がけること。

〔成績評価方法〕

学期末レポート (60%)

課題・感想文等の提出物 (30%)

受講態度 (10%)

なお、レポートや課題については、与えられたテーマに対する理解度・情報収集力・表現力等を見る。

〔教科書〕

特になし

〔参考書〕

相原茂編著『中国語学習ハンドブック』(改訂版, 大修館書店)

小島晋治ほか編著『中国百科』(改訂版, 大修館書店)

その他、授業中に適宜紹介する。

〔準備物〕

適宜授業内で指示する。

〔教員からのメッセージ〕

GDP世界第2位となり、日本への観光客もますます増え続ける、隣の大国「中国」。この授業では、その「中国」に関するさまざまな情報を分析し、紹介していきます。「中国」に少しでも興味のある人は是非受講してみてください。

〔教員との連絡方法〕

M503 研究室

〔参考 Web ページ〕

授業中に適宜紹介する。

〔備考〕

特になし

〔科目名〕 日本文化にふれる
Introduction to Japanese Culture
〔担当者名〕 千古利恵子・プッセル良風
〔開講学期〕 後期
〔単位数〕 2単位

〔授業形態〕 講義

〔授業の概要〕

現代人の暮らしは、この国で生活してきた人々の知恵に支えられている。日本の文化にふれるとは、そのことに気付くことといえる。

「伝統文化」や「伝統芸能」について学ぶが、それだけに限定せず、身近な生活用品なども取り上げながら、我が国の文化について考える。

〔専門的学習成果〕

- ・現代の「衣・食・住」を、「文化」という観点からとらえるための知識を習得する。
- ・書道、歌道、茶道、弓道など「～道」といわれる伝統的な文化について、興味・関心を持つための基礎知識を習得する。

〔汎用的学習成果〕

- ・日本の「伝統芸能」「伝統文化」に関心をもち、文化財の保存に貢献する姿勢を養う。
- ・日本の文化を尊重する態度を育成し、外国文化を理解する態度を養う。
- ・「価値観」の多様性を、身近な外国文化を取り上げ考察するための知識を習得する。

〔事前履修が望ましい科目〕

〔授業計画〕

- 1 オリエンテーション 「文化」という定義について
- 2 伝統文化について学ぶ－仏道修行者の暮らし－
- 3 伝統文化について学ぶ－仏道修行の様子と寺に伝わる文化－
- 4 伝統文化について学ぶ－四国巡礼の様子－
- 5 伝統文化について学ぶ－茶道の作法と茶室のしつらえ－
- 6 伝統文化について学ぶ－文学に描かれた貴族の暮らし－
- 7 伝統文化について学ぶ－伝統芸能について－
- 8 伝統文化について学ぶ－伝統芸能の継承－
- 9 現代人の生活と日本の伝統文化－衣服について－
- 10 現代人の生活と日本の伝統文化－生活道具と室内装飾について－
- 11 現代人の生活と日本の伝統文化－祝儀・不祝儀の決まりについて－
- 12 継承されている文化－熨斗の種類と決まりについて－
- 13 継承されている文化－お節料理のいわれと変化について－
- 14 体験学習に向けて
- 15 体験学習

〔授業方法〕

配付資料やDVDを使って、主に講義形式で行う。
体験学習の機会を設ける予定である。

〔授業外学習〕

体験学習としては、我が国の伝統文化にふれる機会を設ける。

〔成績評価方法〕

課題提出(50%) 学期末試験(レポート形式50%)

〔教科書〕

〔参考書〕

〔準備物〕

〔教員からのメッセージ〕

実習による欠席は避けられないが、可能な限り出席してほしい。
他の受講生に迷惑を及ぼす態度が有る場合は、受講を中止させることがある。

〔教員との連絡方法〕

第1回授業時に、指示する。

〔参考 Web ページ〕

〔備考〕

〔科目名〕 英語コミュニケーション I
English Communication I

〔担当者名〕 小河尚子・プッセル良風・Christopher Willis・L.S.Levy・Nora Appleton

〔開講学期〕 1年次 前期

〔単位数〕 1単位

〔授業形態〕 演習

〔授業の概要〕

簡単な日常会話に必要な基礎英語運用能力を、リスニング、スピーキングを中心とする多様なアクティビティを通して、養成する。原則として2回の授業で教科書の1章を進む。授業はすべて英語で行い、毎回小テストなどを実施し、予習、授業参加度を細かく評価する。

〔専門的学習成果〕

身近なトピックを簡単な英語で表現できる力と speaking, listening, reading, writing の4技能を簡単に多様なアクティビティを通してバランスよく見につけ、基本英語力で可能となる効果的なコミュニケーション力を獲得する。

〔汎用的学習成果〕

基礎英語力で行う自己表現と相互理解を通して効果的なコミュニケーションとは何かを考え、その力を身につける。

〔事前履修が望ましい科目〕

〔授業計画〕

- 1 オリエンテーション
授業の進め方、評価方法、授業への臨み方：予習、積極的な参加など。
- 2 トピック：出会いと紹介
文法：Wh-疑問文と答え方、過去形
- 3 トピック：職業について 語彙：職業、職場関係
- 4 トピック：日課、日常生活
文法：現在形、頻度を表す副詞
- 5 トピック：自由時間の過ごし方
語彙：自由時間にすること
- 6 トピック：就職の面接 文法：can / can't
- 7 トピック：運動、スポーツ
語彙：スポーツ、運動関係
- 8 第2週から第7週までの授業内容の復習(挨拶と紹介、職業、日常生活、自由時間の過ごし方、運動)
- 9 トピック：趣味と興味／関心
文法：「～が好きだ」の表現 (like + 不定詞、like + 動名詞)
- 10 トピック：性格／人柄、付き合い
語彙：性格／人柄を表す形容詞
- 11 トピック：電話での会話 文法：現在進行形
- 12 トピック：天候 語彙：天候、衣類／アクセサリー
- 13 トピック：街中の一人歩き 文法：道を聞く。道を教える
- 14 トピック：駅にて
語彙：駅構内の施設、様々な場所、前置詞
- 15 第9週から第14週までの授業内容の復習(趣味・興味／関心、性格、電話での会話、天候、道をたずねる／教える、場所／位置をたずねる／教える)

〔授業方法〕

毎回、予習前提で速やかで盛りだくさんの内容の授業を展開し、さらに、小テストで理解度を評価する。

〔授業外学習〕

基本文法を応用・発展させて会話力を身につける授業なので、中学、高等学校で学んだ文法事項は必ず復習して授業に臨むこと。予習は必須。

〔成績評価方法〕

学習成果は授業参加度、課題と小テスト(60%)と筆記試験(40%)によって総合的に評価する。

〔教科書〕

『Get Real!』 Angela Buckingham, Miles Craven and David Williamson (Macmillan)

〔参考書〕

〔準備物〕

〔教員からのメッセージ〕

Listening / speaking を中心とした授業を展開するので積極的な参加が求められる。

〔教員との連絡方法〕

小河、プッセルは、それぞれの研究室へ。その他の教員は教務課を通して連絡

〔参考 Web ページ〕

〔備考〕

遅刻3回で欠席1回。テキストを忘れた場合、遅刻1回とする。

〔科目名〕英語コミュニケーションⅡ

English Communication II

〔担当者名〕小河尚子・プッセル良風・Christopher Willis・

L.S.Levy・Nora Appleton

〔開講学期〕1年次 後期

〔単位数〕1単位

〔授業形態〕演習

〔授業の概要〕

簡単な日常会話に必要な基礎英語運用能力を、リスニング、スピーキングを中心とする多様なアクティビティを通して、養成する。原則として2回の授業で教科書の1章を進む。授業はすべて英語で行い、毎回小テストなどを実施し、予習、授業参加度を細かく評価する。

〔専門的学習成果〕

身近なトピックを簡単な英語で表現できる力と speaking, listening, reading, writing の4技能を簡単に多様なアクティビティを通してバランスよく見につけ、基本英語力で可能となる効果的なコミュニケーション力を獲得する。

〔汎用的学習成果〕

基礎英語力で行う自己表現と相互理解を通して効果的なコミュニケーションとは何かを考え、その力を身につける。

〔事前履修が望ましい科目〕

中学、高校で学んだ文法事項をしっかりと復習しておくこと。

〔授業計画〕

- 1 オリエンテーション
授業の進め方、評価方法、授業への臨み方：予習、積極的な参加など。
- 2 トピック：人と会う約束／アポイントメント
文法：現在進行形で表す近接未来、希望／望みを表す表現 (Would you like to …?)
- 3 トピック：言い訳
語彙：家事、活動
- 4 トピック：金銭、金額
文法：How much ～、How many ～
- 5 トピック：買い物、ショッピング
語彙：一般的な家庭用電気製品
- 6 トピック：将来計画、予想
文法：going + to で未来を表す
- 7 トピック：休暇の計画／予定
語彙：休暇のタイプ、休暇中の活動
- 8 第2週から第7週までの授業内容の復習（近接未来表現、家事／活動、金銭表現、買い物、将来計画、休暇の計画など）
- 9 トピック：決まりごとやルール
文法：命令形
- 10 トピック：料理
語彙：調理方法と材料
- 11 トピック：ついてない日
文法：過去時制、規則動詞／不規則動詞の過去形
- 12 トピック：健康
語彙：一般的な健康問題
- 13 トピック：人生の変化
文法：過去時制の疑問文と答え方
- 14 トピック：休暇の報告
語彙：休暇について語るための形容詞、休暇中の活動について
- 15 第9週から第14週までの授業内容の復習（規則、調理、健康、人生の変化、休暇について、命令形、調理の仕方、健康問題、過去のことについての質問と答え方、休暇の報告など）

〔授業方法〕

授業の予習は必須。毎回、予習前提の速やかで盛りだくさんの内容の授業を展開し、さらに、小テストで理解度を評価する。

〔授業外学習〕

基本文法を応用・発展させて会話力を身につける授業なので、中学、高等学校で学んだ文法事項は必ず復習しておくこと。

〔成績評価方法〕

学習成果は授業参加度、課題と小テスト（50%）と筆記試験（50%）によって総合的に評価する。

〔教科書〕

『Get Real! 1』 Angela Buckingham, Miles Craven and David Williamson (Macmillan)

〔参考書〕

〔準備物〕

〔教員からのメッセージ〕

Listening / speaking を中心とした授業を展開するので積極的な参加が求められる。

〔教員との連絡方法〕

小河、プッセルは、それぞれの研究室へ。その他の教員は教務課を通して連絡

〔参考 Web ページ〕

〔備考〕

遅刻3回で欠席1回。テキストを忘れた場合、遅刻1回とする。

〔科目名〕 海外研修

Summer Program in Canada

〔担当者名〕 小河 尚子

〔開講学期〕 1年次 前期 (集中)

〔単位数〕 1単位

〔授業形態〕 実習

〔授業の概要〕

カナダ・カムループス市にある本校の姉妹校・トンプソン・リバーズ大学で3週間にわたる研修期間に同大学の英語とカナダ文化の英語イマージョン授業を他国からの留学生と一緒に受ける。研修期間中は一般家庭にホームステイし、実際の北米の生活文化を体験する。

〔専門的学習成果〕

下記の3項目の専門知識と技術を身につける。

1. 日本文化と北米文化の違いを知ること、自分自身と日本文化をより理解し、客観的に捉える力を身につける。
2. 日本とカナダ相互の文化、歴史の理解、文化交流を通して、文化の持つ異質性、多様性と同質性の複雑さをまなぶ。
3. 英語文化でのイマージョン教育とおして異文化におけるコミュニケーション力を身につける。

〔汎用的学習成果〕

多文化共生における自己文化の知識と理解、異文化の理解と受容の重要性を学び、異文化間におけるコミュニケーション力を獲得する。

〔事前履修が望ましい科目〕

〔授業計画〕

カナダ・カムループスに姉妹校トンプソン・リバーズ大学(Thompson Rivers University)で三週間にわたり他国からの留学生とともに「カナダ文化と英語」(Language and Culture Immersion Program)を受講する。

〔授業方法〕

英語の授業は滞在3週間中の月曜日から金曜日まで毎日、基本的に、朝9時から12時まで学内で行われ、午後は学外を中心とした北米文化体験学習をする。世界中からの留学生とともに英語で学ぶイマージョンの授業を受ける。

〔授業外学習〕

小クラスで、毎日出される様々な課題をこなし、さらに発展させる授業なので、きちんと課題をこなし授業に備えることが大切である。

〔成績評価方法〕

留学中の成績(50%)と「海外研修」履修条件である「異文化理解」で取り組んだプロジェクトの後半(現地における調査)を完成させたレポート(30%)と留学レポート(20%)によって総合的に評価する。

〔教科書〕

〔参考書〕

〔準備物〕

〔教員からのメッセージ〕

〔教員との連絡方法〕

M513 研究室

〔参考 Web ページ〕

〔備考〕

カナダ短期留学は、「北米のことば」「北米の文化」の知識を身につけて、「北米と日本の文化の比較」の実践に備えるという三位一体的総合プログラムであるため、「海外研修」を受講する場合、次の2科目の事前履修が必須である。

- ・「異文化理解 (小河)」
- ・「英語コミュニケーション I」

〔科目名〕 キャリア形成論

Career Planning

〔担当者名〕 桑原 千幸

〔開講学期〕 1年次 前期・後期（半期）

〔単位数〕 2単位 〔授業形態〕 講義

〔授業の概要〕

社会情勢や雇用環境の変化が激しく価値観が多様化している現代社会では、生涯にわたって自分で生き方や働き方を考える主体的なキャリア形成が求められる。この授業では、現代の社会状況について学び、自己理解、職業理解を深めることによって職業観を育む。また、将来の目標や夢を実現するために何をすべきかというキャリアプランを作成していく。

〔専門的学習成果〕

1. キャリア形成が求められる社会情勢と、さまざまな働き方について理解することで自らの職業観を説明できるようになる。
2. 自己理解を深め、自分について口頭および文章で表現することができるようになる。
3. 夢や目標の実現のためにこれから何をすべきかを考えて、自発的に計画・行動することができるようになる。

〔汎用的学習成果〕

1. 自らのキャリアにかかわる現状を把握し、目標を設定して計画に行動する問題発見・解決力および自己管理能力を獲得する。
2. 物事を筋道を立てて考える論理的思考力と、自分の意見を文章および口頭で表現するコミュニケーション・スキルを獲得する。

〔事前履修が望ましい科目〕

特になし

〔授業計画〕

- 1 オリエンテーション～現代社会とキャリア形成
- 2 自分について考えるⅠ～自分史による自己理解
- 3 さまざまな働き方について考える
- 4 女性のライフサイクルとキャリアⅠ～ライフイベント
- 5 女性のライフサイクルとキャリアⅡ～ライフコースと経済的側面
- 6 自分について考えるⅡ～価値観・職業観
- 7 職業理解～就職へのイントロダクション
- 8 若年者のキャリアに関する問題
- 9 社会で活躍中の先輩の話聞く
- 10 社会人に求められる能力
- 11 自分について考えるⅢ～夢・目標、10年後の私
- 12 キャリアプランのプレゼンテーション作成
- 13 キャリアプランの相互評価と改善
- 14 キャリアプランの発表
- 15 発表の振り返りとまとめ

〔授業方法〕

PowerPoint スライドを用いた講義と e ラーニングを組み合わせる授業をすすめる。

〔授業外学習〕

小レポートや課題等、授業および授業外での学習に e ラーニングを利用する。

また、入学時に配布されるキャリアポートフォリオを活用する。

〔成績評価方法〕

個人発表と相互評価学習（50%）、授業内での課題・小レポート（40%）、授業への取り組み姿勢（10%）によって総合的に評価する。

〔教科書〕

特になし

〔参考書〕

授業時に適宜紹介する。

〔準備物〕

特になし

〔教員からのメッセージ〕

私たちが生きる現代社会についての講義とキャリア形成に関わる課題への取り組みをもとに、10年後の「なりたい自分」を想像し、実現するためには今から何をすべきかというキャリアプランを作成していきます。

ランを作成していきます。

将来への不安がある人や、将来に向けて何をしたら良いかわからない人はぜひ受講してください。

〔教員との連絡方法〕

授業終了後または M526 研究室

〔参考 Web ページ〕

特になし

〔備考〕

受講者数は 40 名程度を上限とする。

〔科目名〕 ビジネスマナー

Basic Business Etiquette

〔担当者名〕 市川 順子

〔開講学期〕 前期・後期（半期）

〔単位数〕 1 単位

〔授業形態〕 演習

〔授業の概要〕

社会人として必要な基礎知識を講義と演習で学ぶ。
 実社会で役立つマナーを身につけ、社会人としてスムーズにスタートできるように指導する。
 身につけたマナーを発揮し、即戦力となる社会人を目指す。

〔専門的学習成果〕

以下の3項目の専門知識と技能を身につけ、社会人基礎力を養う。

1. 仕事に対する基本的な考え方
2. 聴き方・話し方、電話応対、来客応対
3. 冠婚葬祭のマナー、文書作成、文書管理

〔汎用的学習成果〕

この講義を通して、社会人としての考え方、行動を身につける。
 また、最も必要とされるコミュニケーション能力を養う。

〔事前履修が望ましい科目〕

〔授業計画〕

- 1 《オリエンテーション・働くとは》
授業の進め方・授業内ルールについて
マナーとは
働くことの意義、社会人と学生の違い
- 2 《仕事をするための基礎知識Ⅰ》
身だしなみ、おじぎ、あいさつ、自己紹介
- 3 《第一印象の重要性》
表情づくり、第一印象（メラビアン法則）、おじぎ実践
- 4 《仕事をするための基礎知識Ⅱ》
聴き方、話し方、指示の受け方、報告の仕方
- 5 《聴き方・話し方演習Ⅰ》
発声練習、アクティブリスニング（傾聴）、話し方実践
指示の受け方・報告の仕方演習
- 6 《言葉遣い》
敬語（尊敬語・謙譲語・丁寧語）、接遇用語
- 7 《聴き方・話し方演習Ⅱ》
敬語、接遇用語ロープレ練習
- 8 《電話応対Ⅰ》
電話の受け方・かけ方、伝言メモ
- 9 《電話応対Ⅱ》
電話の受け方・かけ方ロープレ練習
- 10 《来客応対》
名刺の受け方・出し方、案内の仕方、上座と下座（応接室・乗り物）
- 11 《慶弔マナーⅠ》
慶事・弔事の心得、祝儀・不祝儀袋の種類と上書きの種類
- 12 《慶弔マナーⅡ》
中元・歳暮、歳時記（季節の行事）、食事のマナー
- 13 《ビジネス文書Ⅰ》
社内文書、文書管理、郵便の知識
- 14 《ビジネス文書Ⅱ》
社外文書、封筒の書き方
- 15 《まとめ》
総復習、インバスケッ

〔授業方法〕

教科書の解説を行い、演習で理解を深める。
 期中に小テストや宿題を行い、到達度の確認をする。
 15回の授業終了後に学期末試験を行う。

〔授業外学習〕

授業で学習したことを日常生活で意識して実践し、身につくように努力すること。

〔成績評価方法〕

次の項目で総合評価する。

- ①平常（出席点+マナー点）50%
※受講中の問題行動（私語、居眠り、非協力的態度等）については、減点する
- ②期中（小テスト・宿題）20%
- ③期末（学期末試験）30%

〔教科書〕

『ビジネスマナー』青木テル（早稲田教育出版）

〔参考書〕

〔準備物〕

教科書・ノート・配布プリント（レジュメ）

〔教員からのメッセージ〕

マナーを身につければ、よりよい人間関係を築くことができる。
 マナーは他者のためだけでなく、自分自身のために必要なものである。
 この授業を通じて、就職活動や社会人になって役立つマナーを身につけ、人間的に成長してほしい。

〔教員との連絡方法〕

教務課を通して連絡

〔参考 Web ページ〕

〔備考〕

受講者数は40名程度を上限とする

〔科目名〕新聞を読む

Readings in Current Topics

〔担当者名〕桑原 毅

〔開講学期〕前期・後期（半期）

〔単位数〕2単位

〔授業形態〕講義

〔授業の概要〕

若者の活字離れが進むなかで、メディアの中でも最も身近な存在である新聞に親しむきっかけを与える授業をめざしたいと思います。日々の新聞には新書版1冊分の情報が詰まっています。これまで、新聞と疎遠だった人にも、まず新聞を広げてみる習慣を身につけてもらいたいというのが、私の希望です。今後の授業は、その日「イチ押し」の記事数本のコピーを配布します。その記事から読み解ける内容を解説するとともに、記事の背景にある社会の問題を一緒に考えたいと思います。最初のうちは、記事を読む作業は苦痛かも知れませんが、1本の記事から広がる世界のおもしろさに気づいてもらえれば幸いです。

〔専門的学習成果〕

社会や政治の仕組み、教育の現状や経済問題など、新聞と一緒に読み解くうちに知識や関心領域を広げてもらうことが可能だと思います。新聞という生きた情報を材料にして、知識発展型の専門的な領域に進む授業にしたいと考えています。

〔汎用的学習成果〕

いじめや少年非行、教育についての保護者の願いなど、これまでの教育・学校取材や警察取材で経験した体験を元に、広く教育問題の方向にも話題を発展して、保育や教育に関心がある学生の期待にも応える授業にしたいと思います。

〔事前履修が望ましい科目〕

特に、事前履修が望ましい科目はありませんが、日々のテレビや新聞のニュースに目を向ける努力をしてほしいと考えています。

〔授業計画〕

- 1 新聞入門①
まず新聞の実物を手にしてもらい、紙面構成や新聞など活字メディアの特性を概説します。
- 2 新聞入門②
引き続き、新聞を配布して、夕刊と朝刊の違い、テレビと新聞の違い、締め切り時間の制約など新聞メディアの特性を説明します。
- 3 新聞入門③
新聞の特性である「見出し」など、実際に新聞に目を通すときの技術を説明します。
- 4 新聞入門④
実際の新聞取材の経験を元に新聞の舞台裏に踏み込んだ説明をします。
- 5 新聞入門⑤
入門編をまとめる形で、これまでの授業を締めくくり、次回の授業への導入になるよう話をつなげます。
- 6 日々の新聞から①
主に1面に扱われた記事を中心に、話を進めます。
- 7 日々の新聞から②
主に社会面に扱われた記事を中心に記事を読み解きます。
- 8 日々の新聞から③
コラムや読者の投稿を中心に話を進めます。
- 9 日々の新聞から④
主に教育や保育の問題を考えます。
- 10 日々の新聞から⑤
引き続き、教育や保育の問題を考えます。
- 11 日々の新聞から⑥
経済や家計の問題を考えます。
- 12 日々の新聞から⑦
消費者問題や生活の安全を考えます。
- 13 参院選を前に①
7月の参議院選挙を前に、選挙や政治に関する記事に特化した話を進めます。
- 14 参院選を前に②
選挙の仕組みや国会の構成など、政治報道の世界を一緒にのぞきます。
- 15 参院選を前に③
選挙報道に欠かせない世論調査の実施方法や意義、選挙投票日当日の「出口調査」など、選挙にまつわるあれこれを紹介して、選挙に関心を持ってもらう授業を考えています。

〔授業方法〕

新聞や記事のコピーは私の方で用意します。記事コピーを出発点に、その記事の背景や事情を説明して、話題を進めます。皆さんからの質問や疑問点の指摘は歓迎します。一方通行の授業にならないように、皆さんからの発言をお待ちします。

〔授業外学習〕

特に予習や復習は求めませんが、新聞以外のテレビやラジオ、週刊誌、インターネットなど世の中に流れる生きたニュースに常に敏感であってほしいと思います。

〔成績評価方法〕

レポート課題 70%
授業への前向きな参加度 30%
により総合的に評価する。

〔教科書〕

特になし

〔参考書〕

特になし

〔準備物〕

特になし

〔教員からのメッセージ〕

情報があふれる現代、新聞という身近なメディアに少しでも触れ、確かな情報を読み取り、切り取れる社会人に育ってほしいと願っています。

〔教員との連絡方法〕

授業時に指示する

〔参考 Web ページ〕

〔備考〕

〔科目名〕情報機器の操作

Operation of Information Appliances

〔担当者名〕喜田 美佐枝（モーリス）

〔開講学期〕1年次 前期・後期（半期）

〔単位数〕2単位

〔授業形態〕演習

〔授業の概要〕

ゼミなどでのデータ処理及び発表、レポート作成、論文作成に必要な知識・技能を修得し、社会人として情報処理能力を活かして実務に有意に携わることを目標とします。

Word・Excel・Power Point・インターネットなどのアプリケーション操作を習得し、併せて課外で各アプリケーションソフトの課題・パソコン一般知識を習得します。

〔専門的学習成果〕

下記の3項目のアプリケーション知識と技能を身につける。

- 1.Wordによる文書作成・編集方法。
- 2.Excelによる表計算・編集方法。
- 3.Power Pointによるプレゼンテーション技法。

〔汎用的学習成果〕

パソコンを利用し、オフィスアプリケーション全般を学習し、実践で活用できる能力を身につけるとともに、パソコン周辺機器・一般知識について習得する。

〔事前履修が望ましい科目〕

〔授業計画〕

- 1 授業概要の説明
コンピュータ利用における注意事項
・ID、パスワードについて
WEBメールの練習（操作方法・メール交換）
・メールのマナーについて
タイピング練習方法（タイピング練習サイト）
個人フォルダの確認
- 2 Word ①
・文字入力の確認（入力後変換・IMEパッド）
・タイピング腕試し
コンピュータ利用における注意事項
・メディアについて
・ファイルの概念と管理方法
- 3 Word ②
・ビジネス文書作成1
*研修セミナーのご案内
- 4 ペイント
・イラストの作成
・Word、ペイントの連携操作
コンピュータ利用における注意事項
・著作権について
・セキュリティについて
Word ③
・Word課題作成
*運動会のプログラム
- 5 Word ④
・図形描画機能
*図形描画機能の基本
- 6 Word ⑤
・ビジネス文書の作成2
*新コースのご案内
- 7 タイピング中間テスト
Excel ①
・基本操作の確認1
*Excel基本練習
- 8 Excel ②
・基本操作の確認2
・表とグラフ1
- 9 Excel ③
・基本操作の確認3
・表とグラフ2
- 10 Excel ④
・Excel課題作成
*カレンダーの作成
- 11 Excel ⑤
・関数（MAX・MIN・RANK・PHONETIC・IF）
・データベース機能
- 12 Excel ⑥
・3D集計

Power Point ①

- ・作品紹介
- ・基本操作の確認
- ・自己紹介作成

13 Power Point ②

- ・Power Point課題作成

14 Power Point ③

- ・課題発表
- スキルチェック
- ・タイピング、スキルチェック
（情報モラル、ワード、エクセルなど）

15 Word・Excel復習

〔授業方法〕

パソコンを使用した実習中心の授業です。テキストを元に講師の操作画面を見ながら、操作を行う。

〔授業外学習〕

授業時間外に提出課題を作成、期日までに提出が必要です。

〔成績評価方法〕

- | | | | |
|-----------------|---------|--------|-------|
| 期末試験 | [実技] | ・・・・・・ | (35%) |
| 学期中の試験 | [実技] | ・・・・・・ | (12%) |
| 受講態度 | [授業の出席] | ・・・・ | (25%) |
| アプリケーションごとの課題提出 | | ・・ | (28%) |

〔教科書〕

〔参考書〕

〔準備物〕

〔教員からのメッセージ〕

〔教員との連絡方法〕

S509教室にて随時対応

【月～金曜日 10:00～18:00 ※授業担当時は不在】

〔参考Webページ〕

〔備考〕

各学科・専攻の内容にあわせた授業プログラム・課題提出となる。

〔科目名〕初年次演習（基礎）

First Year Education (Basic)

〔担当者名〕芦村正文・有本隆・岩田薫・笠田真由美・丹田敬子・中野庸起子

〔開講学期〕1年次 前期

〔単位数〕1単位

〔授業形態〕演習

〔授業の概要〕

短大での勉学に必要なとされる基礎的な能力（読む、書く、聞く、考えをまとめる）を養う。実践的な課題に取り組むなかで、学生として主体的に学ぶ姿勢や学び方を身につける。

〔専門的学習成果〕

短大での勉学に必要なとされる基礎的な能力（読む、書く、聞く、考えをまとめる）を身に付ける。

〔汎用的学習成果〕

情報を適切に理解する能力、自身の考えを整理し、他者に正確に伝えることができる文章力と表現力を習得する。学生として主体的に物事に取り組む姿勢を身に付ける。

〔事前履修が望ましい科目〕

特になし

〔授業計画〕

- 短大での学び方を知る（授業の受け方、ノートのまとめ方）
- 文章を正しく読む 書く ①文章読解
- 文章を正しく読む 書く ②文章を書くことの大切さ
- 文章を正しく読む 書く ③手紙、メール
- 話の聞き方、まとめ方 ①メモをとる
- 話の聞き方、まとめ方 ②聞いた内容をまとめる
- レポートとは
- レポートの作成 ①引用のルールと論証の方法
- レポートの作成 ②グラフ、表の読み方と作り方
- レポートの作成 ③図書、インターネット情報検索方法
- 文章表現 ①小作文
- 文章表現 ②意見文、批評文
- 文章表現 ③要約、報告
- 文章表現 ④課題設定
- 文章表現 ⑤課題への取り組み

〔授業方法〕

授業は学科の専門に関連する新聞記事やビデオを題材とし、演習形式で進めていく。

〔授業外学習〕

授業は課題提出を含むので、あらかじめ指示する課題について情報を収集しておくこと。

〔成績評価方法〕

学期末試験 40% 試験
学期中の試験 50% 小テスト・文章表現課題提出
平常点評価 10% 受講態度

〔教科書〕

『初年次演習ワークブック』（京都文教短期大学）
『日本語表現法』（ワオ・コーポレーション）

〔参考書〕

授業中に随時紹介する。

〔準備物〕

特になし

〔教員からのメッセージ〕

学生生活や就職活動、そして、社会人になってからも必要となる基礎的な能力を養います。学ぶことに対する積極的な姿勢を期待しています。

〔教員との連絡方法〕

教務課を通して連絡

〔参考 Web ページ〕

特になし

〔備考〕

特になし

〔科目名〕初年次演習（発展）

First Year Education (Development)

〔担当者名〕桑原 千幸

〔開講学期〕1年次 後期

〔単位数〕1単位

〔授業形態〕演習

〔授業の概要〕

初年次演習（基礎）で獲得した基礎的な能力をもとに、自らが興味あるテーマを設定し、情報収集、分析、考察、発表を行い、最終的にレポートの提出を行う。問題を発見し、解決する能力を養うことで、各学科の2年次に行われる専門のゼミやインターンシップにつなげる。

また、実践的な文章表現課題やグループワークでの取り組みを通じて、文章および口頭での効果的なコミュニケーション・スキルと、学生として主体的に学ぶ姿勢や学び方を身につける。

〔専門的学習成果〕

- 課題の遂行に必要な情報を収集し、整理してまとめることができるようになる。
- 自分の意見を文章および口頭で論理的に表現できるようになる。
- 一連の研究プロセスを通して、主体的に物事に取り組む姿勢と、問題を発見し解決する能力を身につける。

〔汎用的学習成果〕

短大での主体的な学びに必要な問題発見・解決力、論理的思考力、コミュニケーション・スキルを獲得する。また、他者と協力して課題に取り組むことで、「チームで働く力」を身につける。

〔事前履修が望ましい科目〕

初年次演習（基礎）

〔授業計画〕

- オリエンテーション：大学での学び
- テーマの設定と問題の発見～マインドマップを作る
- 情報検索と情報の活用
- 情報の収集：インターネット
- 情報の収集：図書館
- 文章表現1：履歴書の作成
- プレゼンテーションの方法と技術
- 文章表現2：論作文
- 中間発表
- 情報の整理：KJ法
- グループワーク1：コミュニケーションを考える
- 文章表現3：レポート・論文
- 図・表の読み取りと作成
- グループワーク2：チームでの問題解決
- 最終発表とまとめ

〔授業方法〕

演習形式で行い、個人またはグループで課題に取り組み、学習成果を発表する。

〔授業外学習〕

レポート作成のために、授業外において各自が計画的に取り組むことが求められる。

〔成績評価方法〕

文章表現課題等の提出物および授業内のタスク（30%）、発表（30%）、最終レポート（30%）個人またはグループでの主体的な取り組みの姿勢（10%）によって総合的に評価する。

〔教科書〕

特になし

〔参考書〕

授業時に適宜紹介する。

〔準備物〕

特になし

〔教員からのメッセージ〕

自由な発想でテーマを設定してレポートを作成します。

さまざまな人と関わることで成長したい、大学生としての主体的な学びに取り組みたいという意欲的な学生の参加に期待します。

〔教員との連絡方法〕

授業終了時または M526 研究室

〔参考 Web ページ〕

特になし

〔備考〕

受講者数は30名程度を上限とする。

〔科目名〕 仕事体験演習

Internship

〔担当者名〕 山下 篤央

〔開講学期〕 後期

〔単位数〕 2 単位

〔授業形態〕 演習

〔教科書〕

特になし

〔参考書〕

特になし

〔授業の概要〕

企業と大学の共同で実施する本科目の目的は、企業から提示される課題に沿って、企画の立案、発表、説得を授業内外で体験することである。この体験は、現在、学校で学んでいることを実践に落とし込むスキルの構築に繋がる。また、将来の仕事で即戦力として活躍するための礎となる。

〔専門的学習成果〕

次の項目を経験し、社会人としての基礎を構築する。

1. “仕事する”ことを理解する。
2. ビジネスマナーの理解。
3. コミュニケーションスキルの向上。
4. 自己管理能力を養う。
5. 企画を構築する方法を学ぶ。

〔汎用的学習成果〕

建学の精神、『誠実にして精進努力』を基礎として、社会のルールに従って物事を考え行動できる力と自己管理能力を育む。そして、本科目を通じて、他者と自分の関係性と物事と自分の関係性を理解する力を構築する。

〔事前履修が望ましい科目〕

初年次演習（発展）

キャリア形成論

〔授業計画〕

- 1 仕事体験実習オリエンテーション
- 2 プレゼンテーションを考える
 - プレゼンテーションとは？／プレゼンテーション構築方法
- 3 企画を立てる方法（ブレインストーミング）
- 4 課題
 - 企業課題の提示
 - 企業課題ごとにグループに分かれ企業訪問（企業分析・課題について質問）
- 5 企画構築のためのグループワーク①
- 6 企画構築のためのグループワーク②
- 7 企画構築のためのグループワーク③
- 8 企画中間報告（学内）／発表
- 9 企画発表のためのグループワーク①
- 10 企画発表のためのグループワーク②
 - （プレゼンテーションリハーサル）
- 11 第1回プレゼンテーション（企業においてプレゼンテーションの実施・企業評価）
- 12 企画の改善のためのグループワーク①
- 13 企画の改善のためのグループワーク②
- 14 第2回プレゼンテーション（企業においてプレゼンテーションの実施・企業評価）
- 15 評価のフィードバックと仕事体験演習を振り返って：ディスカッション

〔授業方法〕

本科目は、グループワークを中心に行う。課題は、企業から提示され、その課題に沿って企画の立案する。また、作成した企画については、企業においてプレゼンテーションを行う。

※グループは担当教員が決定する。グループワークで非協力的態度をとる場合、減点の対象や受講停止になる場合がある。

〔授業外学習〕

企業から提示される課題に基づき、企画を構築する。よって、企業が求めている需要を十分に理解すること。また、企画を構築するための調査、考案などは、授業外でグループワークを行うことが必要になる。

グループワークでは、協力して仕事を進める力を養う。

〔成績評価方法〕

企画内容と企画のプレゼンテーション（50%）＋レポート課題（30%）＋受講態度（授業に対しての非協力的態度については、減点する場合がある）（20%）

※プレゼンテーションについては、企業評価を元に学習の評価を行う。

〔準備物〕

企画を提示する企業に訪問する。社会人としてのマナーに準じ、身なり服装を整える。

〔教員からのメッセージ〕

企画を一から立ち上げ、それを発表するまでのプロセスには多くのエネルギーが必要になります。それは、グループワークにおいて、協力というエネルギー、企画立案のために費やすエネルギーや他者に立案した内容を伝えるエネルギーなどです。これらのエネルギーを実感してください。また、物事を創り出す楽しさも肌で感じ取ってください。

※疑問、質問がある場合、随時、担当教員と相談してください。

〔教員との連絡方法〕

M509 研究室

〔参考 Web ページ〕

特になし

〔備考〕

経費について

- 授業外にての活動に必要な経費、企画を構築するための必要物の経費、演習活動に必要な保険加入は、自己負担とする。
- 企業訪問、プレゼンテーションに行く場合の交通費は、自己負担とする。

身なり服装について

- 社会人の基礎となる身だしなみを整えることが本科目の受講に必要である。

※身だしなみを整えることができない場合、受講を停止する場合があります。

開講について

- 受講者が少数で有りグループワークが実施できない際、本科目を開講しない場合がある。